高岡市埋蔵文化財調査概報第56冊

市内遺跡調査概報ＸＩＶ

―― 平成15年度、石塚遺跡の調査他 ――

2004年３月

高岡市教育委員会

※表紙・大扉カット＝石塚遺跡と二上山；手前が石塚遺跡きぼう地区、上方が二上山

序

高岡市域における遺跡は、古くは丘陵や台地縁辺部において採集された旧石器時代の石器があり、その後近世の都市遺跡に至るまで、縄文時代、弥生時代をはじめ古代～中世の遺跡が所在しています。

これらの遺跡は、丘陵・台地部から平野まで市内各所に分布し、高岡市固有の風土や郷土文化を形作る一部となっています。本市教育委員会におきましては、長年にわたりこの遺跡保護行政を実施してきました。

今回ここに報告しますのは、個人住宅建築等の開発行為に伴い平成１５年度に実施した21箇所の遺跡－石塚遺跡、岩坪岡田島遺跡、中曽根館遺跡、出来田南遺跡等の発掘調査の内容です。

石塚遺跡は高岡市域南西側の和田地区の平野部に所在しています。弥生時代の遺跡として稲作文化の普及を示す県内を代表とする遺跡として知られています。弥生時代中期の土器・石器が出土したほか、新たな古墳が確認され、石塚古墳群の範囲が北側へ広がることが判明しました。中世の遺物の出土もみられました。

中曽根館遺跡については、間坂儀三郎氏による遺物の収集、研究がなされています。弥生時代後期を中心とした多数の遺構・遺物が紹介されています。今回の調査では奈良平安時代や中世の遺構・遺物が確認されました。

出来田南遺跡は高岡市街地の南西部に位置しています。律令期を中心とする遺跡で、掘立柱建物址等の遺構が検出され、墨書土器等が出土しています。官衙的な様相も示している遺跡です。今回の調査では掘立柱建物址などの遺構が検出されました。市域より他に幾つか官衙的集落遺跡が確認されており、これらとの比較検討が必要と思われます。

その他の遺跡は、過去に発掘調査の実績があり、各遺跡の内容把握がさらに進展いたしました。

最後になりましたが、今回の調査実施に御協力頂きました、関係各位、地元の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成16年３月

高岡市教育委員会

教育長　細呂木　六良

例　言

１．本書は、富山県高岡市において平成15年度に実施した、埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。

２．当調査は、開発工事に伴い実施した調査である。

３．当調査は、平成15年度国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会文化財課が実施した。

４．本書では、試掘調査を行った20遺跡24箇所の調査の報告である。この内、４箇所については詳細を報告し、それ以外は一覧表にまとめた。

５．調査関係者は以下の通りである。

文化財課長；大石　茂

〔埋蔵文化財担当〕

本林弘吉（副主幹）

根津明義（主任）

荒井　隆（主任）

太田浩司（文化財保護主事）

７．本書における遺構番号は次の通りである。

ＳＢ－掘立柱建物址、ＳＺ－古墳、ＳＤ－溝、ＳＫ－土坑

ＳＸ－その他の遺構

８．本書における遺物番号は次の通りである。

1001～：石塚遺跡、出土遺物

2101～：岩坪岡田島遺跡、出土遺物

3001～：中曽根館遺跡、出土遺物

4001～：出来田南遺跡、出土遺物

９．現地調査及び報告書作成において、以下の各氏より、御教示・御援助を得た。

小島俊彰、岡田一広、斎藤隆、西井龍儀、橋本正春、宮田進一

（順不同・敬称略）

10．本書の執筆は荒井が担当した。

調査参加者名簿　**発掘**　石田敏行、桶谷潤、河原康弘、小林央、笹島文克、佐野實、沢田和明、高嶋輝雄、瀧律子
竹内喜三、中山賢富、畠山行男、馬道弘一、山崎一男、山城一夫

整理　桶谷潤、小林央、西野まり子、村中理佳

市内遺跡調査概報ＸⅣ

目　　次

序
例言
目次

１．石塚遺跡 …… 1

２．岩坪岡田島遺跡 …… 17

３．中曽根館遺跡 …… 25

４．出来田南遺跡 …… 33

５．その他の調査地区 …… 41

図　面　目　次

図面01　遺物実測図　石塚遺跡　土器類
図面02　遺物実測図　岩坪岡田島遺跡　土器類

図　版　目　次

図版01　遺構　石塚遺跡　　１．調査地区遠景（北西）
　　２．調査地区全景（西）
図版02　遺構　石塚遺跡　　１．調査地区全景（上方）
　　２．調査地区南半部全景（上方）
図版03　遺構　石塚遺跡　　１．古墳ＳＺ01・03号墳近景（東南東）
　　２．古墳ＳＺ01・03号墳近景（北）

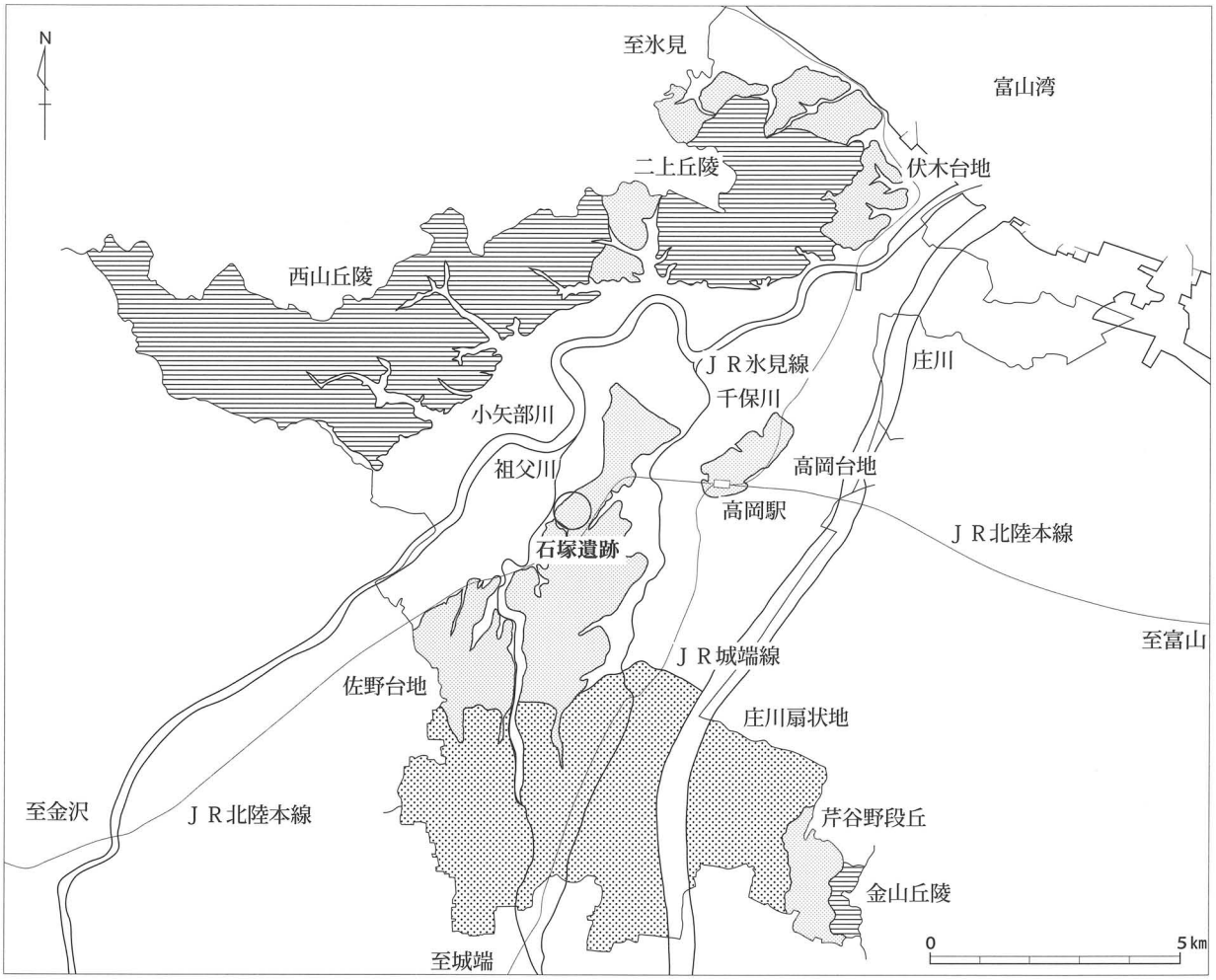
図版04　遺構　石塚遺跡　　１．古墳ＳＺ01・03号墳近景（上方）
　　２．古墳ＳＺ01・03号墳土層断面（東南東）
図版05　遺構　石塚遺跡　　１．古墳ＳＺ02号墳全景（北東）
　　２．古墳ＳＺ02号墳全景（北）
図版06　遺構　石塚遺跡　　１．遺物出土状態（南）
　　２．遺物出土状態（南東）
　　３．遺物出土状態（北東）
図版07　遺構　岩坪岡田島遺跡　１．調査地区全景（東）
　　２．調査地区全景（西）
　　３．遺物出土状態（北）
図版08　遺構　中曽根館遺跡　　１．調査地区全景（北東）
　　２．調査地区全景（北西）
　　３．溝ＳＤ01全景（南）
図版09　遺構　出来田南遺跡　　１．調査地区全景（西北西）
　　２．調査地区全景（北東）
図版10　遺構　出来田南遺跡　　１．掘立柱建物址ＳＢ01全景（東南東）
　　２．掘立柱建物址ＳＢ02全景（西南西）
図版11　遺物　　石塚遺跡、土器類
図版12　遺物　　１．岩坪岡田島遺跡、土器類
　　２．中曽根館遺跡、土器類

挿　図　目　次

第１図　石塚遺跡位置図（1／15万）…… 1
第２図　石塚遺跡きぼう地区位置図（1／5,000）…… 2
第３図　石塚遺跡きぼう地区全体遺構図（１／400）…… 4
第４図　石塚遺跡きぼう地区北西部遺構図（１／200）…… 5
第５図　石塚遺跡きぼう地区北東部遺構図（１／200）…… 6
第６図　石塚遺跡きぼう地区南西部遺構図（１／200）…… 7
第７図　石塚遺跡きぼう地区南東部遺構図（１／200）…… 8
第８図　石塚遺跡きぼう地区古墳ＳＺ01・03号墳遺構図（１／400）…… 10
第９図　石塚遺跡きぼう地区古墳ＳＺ01・03号墳土層断面図（１／80）…… 10
第10図　石塚遺跡きぼう地区古墳ＳＺ02号墳遺構図（１／200）…… 11
第11図　石塚遺跡きぼう地区古墳ＳＺ02号墳土層断面図（１／40）…… 11
第12図　石塚遺跡きぼう地区石製品実測図（実大）…… 15
第13図　石塚遺跡きぼう地区石鏃（約実大）…… 15
第14図　岩坪岡田島遺跡位置図（1／15万）…… 17
第15図　岩坪岡田島遺跡三芝硝材地区位置図（1／5,000）…… 18
第16図　岩坪岡田島遺跡三芝硝材地区遺構図（１／600）…… 20
第17図　岩坪岡田島遺跡三芝硝材地区土製品実測図（１／２）…… 23
第18図　岩坪岡田島遺跡三芝硝材地区土錘（１／２）…… 23
第19図　中曽根館遺跡位置図（1／15万）…… 25
第20図　中曽根館遺跡稲垣地区位置図（1／5,000）…… 26
第21図　中曽根館遺跡稲垣地区遺構図（１／100）…… 28
第22図　中曽根館遺跡遺物実測図（１／３）…… 31
第23図　出来田南遺跡位置図（1／15万）…… 33
第24図　出来田南遺跡ミタホーム地区位置図（1／5,000）…… 34
第25図　出来田南遺跡ミタホーム地区遺構図（１／200）…… 36
第26図　出来田南遺跡ミタホーム地区掘立柱建物址ＳＢ01・02遺構図（１／80）…… 37
第27図　出来田南遺跡ミタホーム地区遺物実測図（１／３）…… 39

１．石塚遺跡

―　きぼう地区の調査　―



第１図　石塚遺跡位置図（１／15万）

Ⅰ　遺跡概観

遺跡概観

「石塚遺跡」は、高岡市域の南西郊、ＪＲ高岡駅の西南西約3.0kmに位置する。遺跡の北側には都市計画道路下伏間江福田線が東西に横断する。遺跡の東側にはＪＲ北陸本線が走り、千保川が北流し、西側には祖父川が北流する。これらに囲まれた標高11～12mを計る庄川扇状地の末端部、佐野台地上に立地している。台地縁辺部の微高地上には数々の遺跡が分布している。当遺跡の北西側には石塚江之戸遺跡があり、縄文時代晩期から中世の遺構・遺物が確認されている。北側には下北島住吉遺跡、上北島遺跡が位置している。縄文晩期から奈良平安時代・中世にかけて営まれた遺跡群である。東側には石名瀬Ｂ遺跡があり、さらに和田川を挟んで東木津遺跡が位置する。奈良平安時代を中心とする遺跡で、多数の掘立柱建物址群が確認されている。西側には石塚五俵田遺跡、石塚蜻保遺跡があり、縄文時代晩期の遺物が採集されている。南側は石名瀬Ａ遺跡や西佐野千代遺跡がある。弥生時代中期から奈良平安時代にかけて営まれた遺跡である。

当遺跡では古くから遺物の出土することが知られ、昭和41年から実施された石塚地区土地改良事業により弥生土器等の遺物が出土したことから遺跡の存在が確認された。

第２図　石塚遺跡きぼう地区位置図（１／5,000）

昭和43年には高岡工芸高等学校地理歴史クラブＯＢ会（オジャラ会）により発掘調査が行われた。昭和55年からは当市教育委員会により発掘調査が実施され、現在まで数々の調査が行われている。昭和60年～62年には都市計画道路建設に伴い発掘調査が実施され、弥生時代中期や古墳時代前期、中世の遺構や遺物が多数確認された。平成３年度には隣接地で小規模な調査を実施した。これらの調査により、３基の古墳群が検出され、石塚古墳群が確認された。平成９年度には都市計画道路建設に伴い調査を行い、新たに石塚４号墳と遺跡北西側縁辺部の状況を確認した。この他、遺跡内の調査により弥生時代中期の方形周溝墓を初めとして、縄文時代後～晩期、古墳時代中期、中世の遺構・遺物も確認されており、縄文時代～中世に至る大規模な複合遺跡とされる。遺跡の範囲は東西約500ｍ、南北約700ｍを計る。

調査に至る経緯

平成15年３月に施主からの問い合わせにより、当遺跡における介護老人保健施設建設計画を知るところとなった。このため、施主の吉江正己氏との協議、承諾を得て、同年４月より試掘調査を実施するに至った。調査地区は和田（若生町）集落、荊原神社の南西側にあたり、都市計画道路下伏間江福田線の北側に接し、西佐野和田跨線橋の北西側に位置する。遺跡の中央部北側にあたる。

調査経過

発掘調査は平成15年４月17日から同年５月７日まで実施した。当初、試掘坑（トレンチ）を８箇所（第１～８トレンチ）設定した。南側の都市計画道路下伏間江福田線の調査では、石塚古墳群の１号墳や中世の遺構・遺物が確認されており、今回の調査地区内へ広がることが想定された。道路の隣接する範囲には可能な限り試掘坑を設定した。各トレンチはバックホーにより表土を除去し、調査地区内に積み上げた。この際、弥生土器など多数の遺物が出土し、また各トレンチからも多数の遺構を検出した。そこで遺構、遺物の集中箇所を中心に、トレンチを拡張し遺構の範囲確認に努めた。表土除去後、遺構の検出、確認、記録という一連の作業を行った。今回は試掘調査のため、必要箇所を除いて遺構の掘下げは行っていない。また、公共座標は設定せず、任意の測量である。調査対象面積は3,852㎡、発掘調査面積は566㎡である。

基本層序

平均20㎝前後の表土（耕作土）の下に、厚さ10㎝前後の暗灰色粘質土（遺物包含層）がある。この下層に黄褐色砂質土からなる地山土（基盤層）を確認した。平成７年の遺跡南端部の調査では、この基盤層の下層から縄文時代後期の遺物包含層が確認されている。今回の調査地区は、遺跡の北側縁辺部に位置することから、その層の有無を確認するため、試掘坑の一部において深堀りを行った。表土下１ｍまで掘削したが青灰色砂質土が均一に広がっており、確認した範囲では縄文時代とおもわれる土層は見られなかった。なお、遺構検出面の状態では、調査地区内は区画整理の際に削平を受けているものと思われる。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。

古墳３基（ＳＺ01～03）、土坑22基（ＳＫ01～22）、溝状遺構８条（ＳＤ01～08）、凹地１基（ＳＸ01）

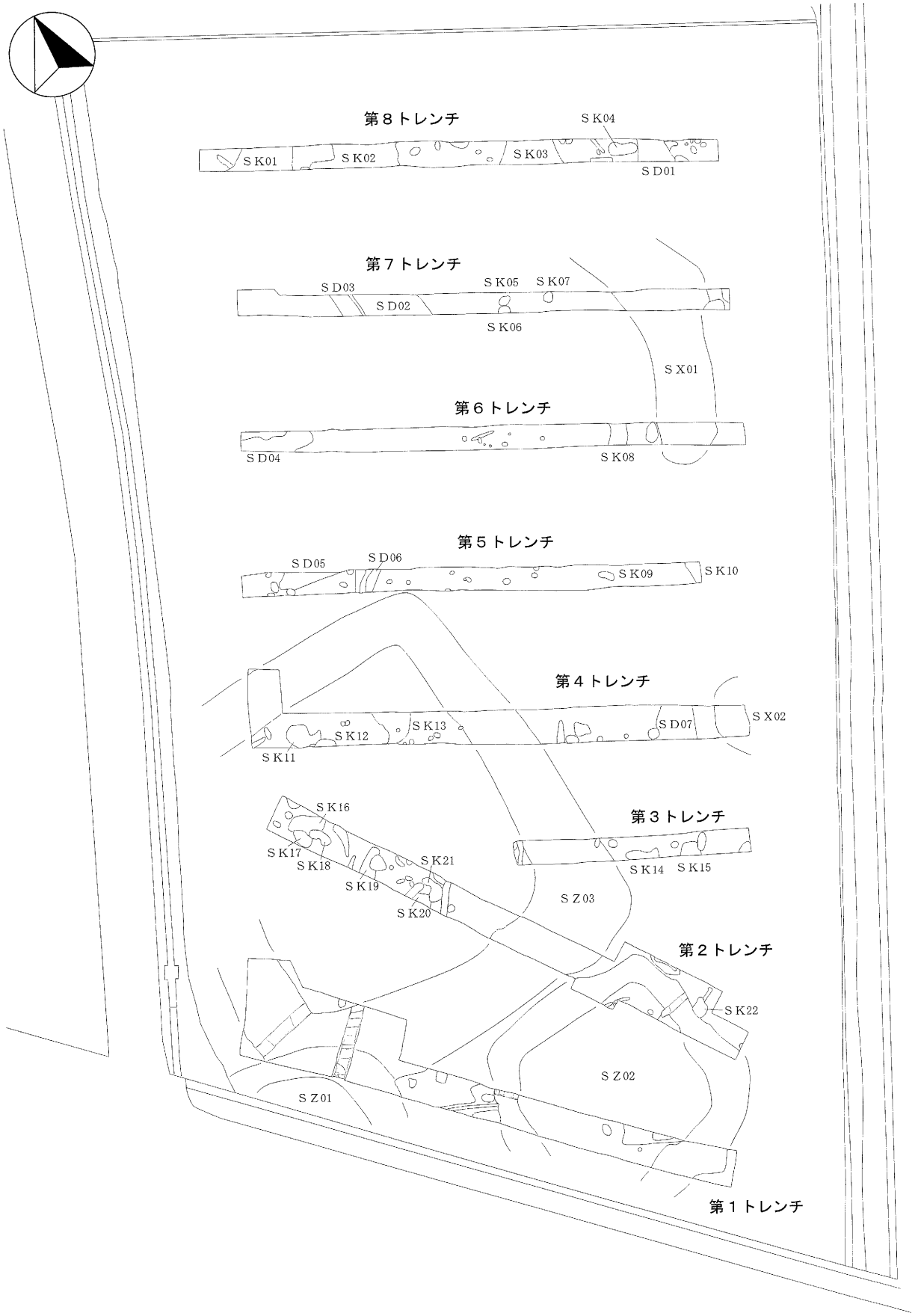
この他に、ピットを多数検出している。

出土遺物

出土遺物は次の通りである。

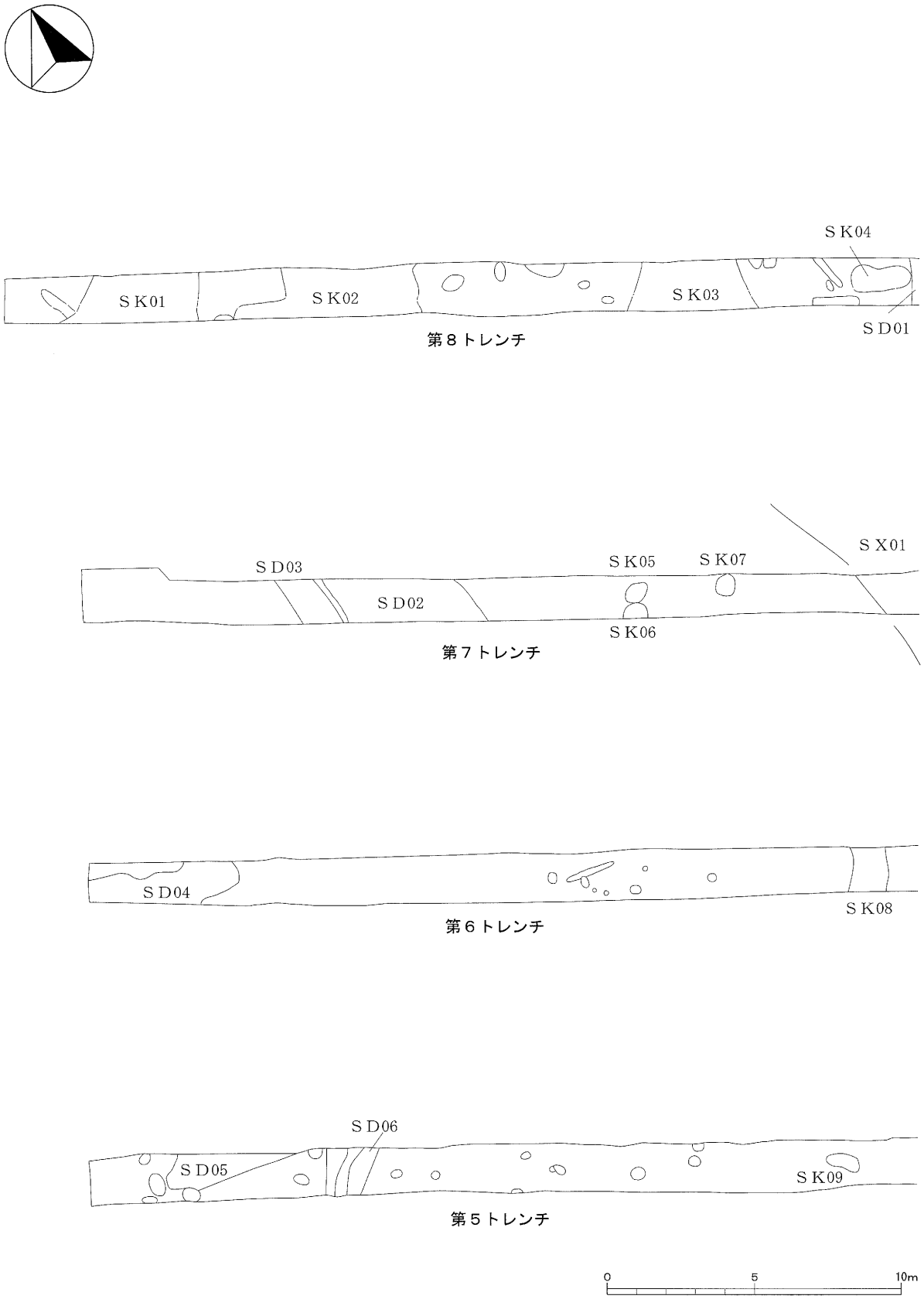
土器・陶磁器類：弥生土器、須恵器、土師器、珠洲、越中瀬戸

石製品：石鏃

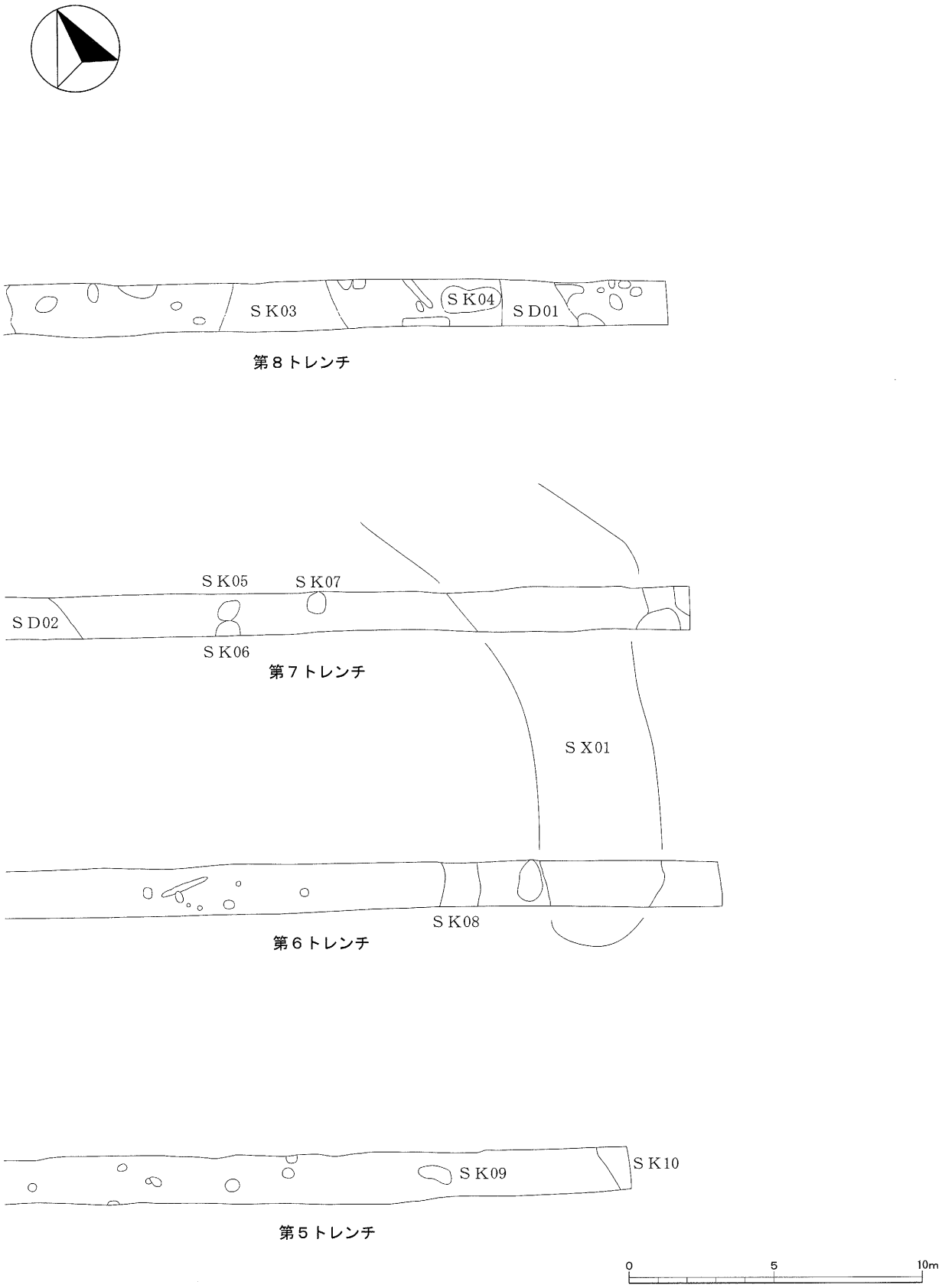


第３図　石塚遺跡きぼう地区全体遺構図（１／400）

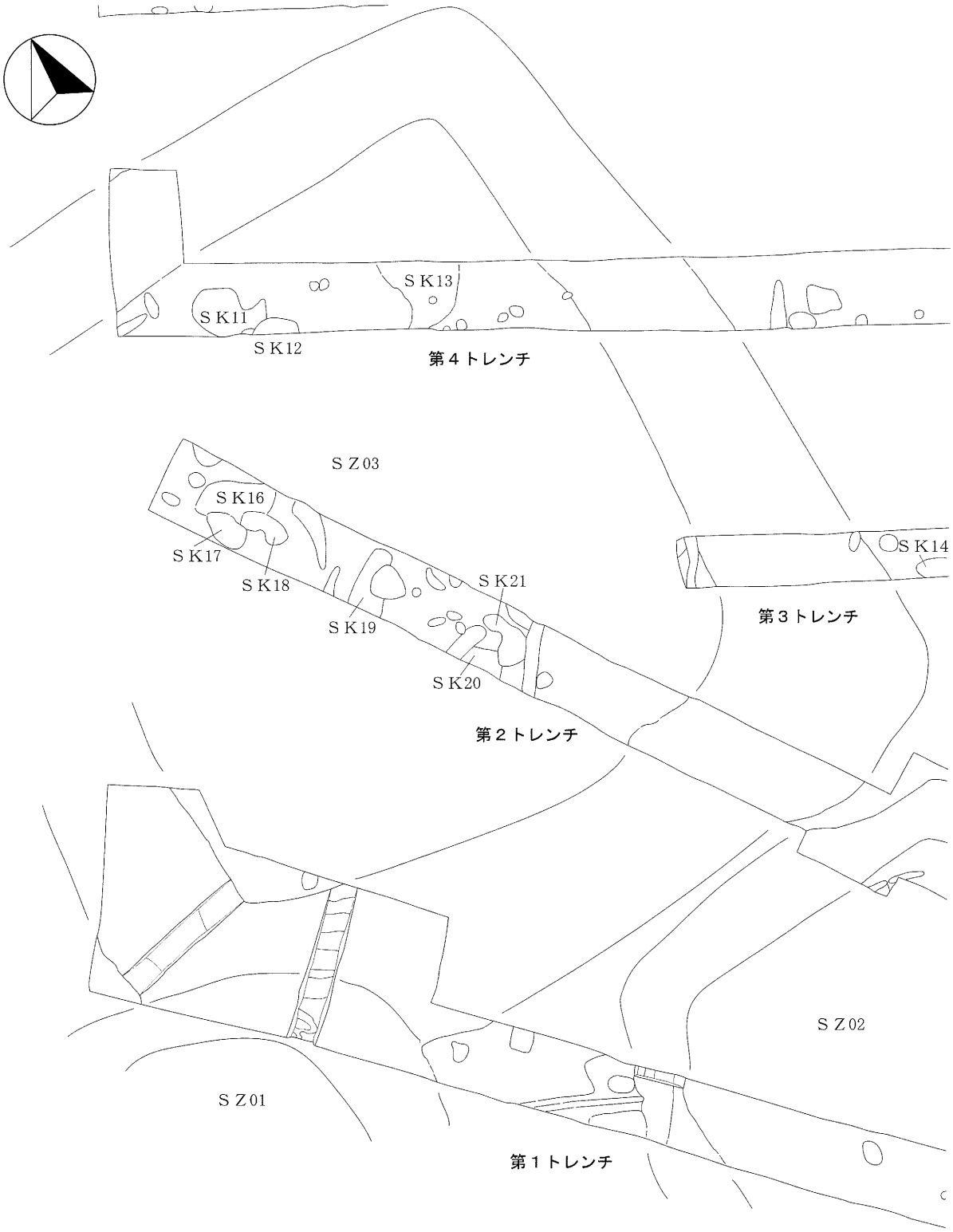
0　10　20m



第４図　石塚遺跡きぼう地区北西部遺構図（１／200）

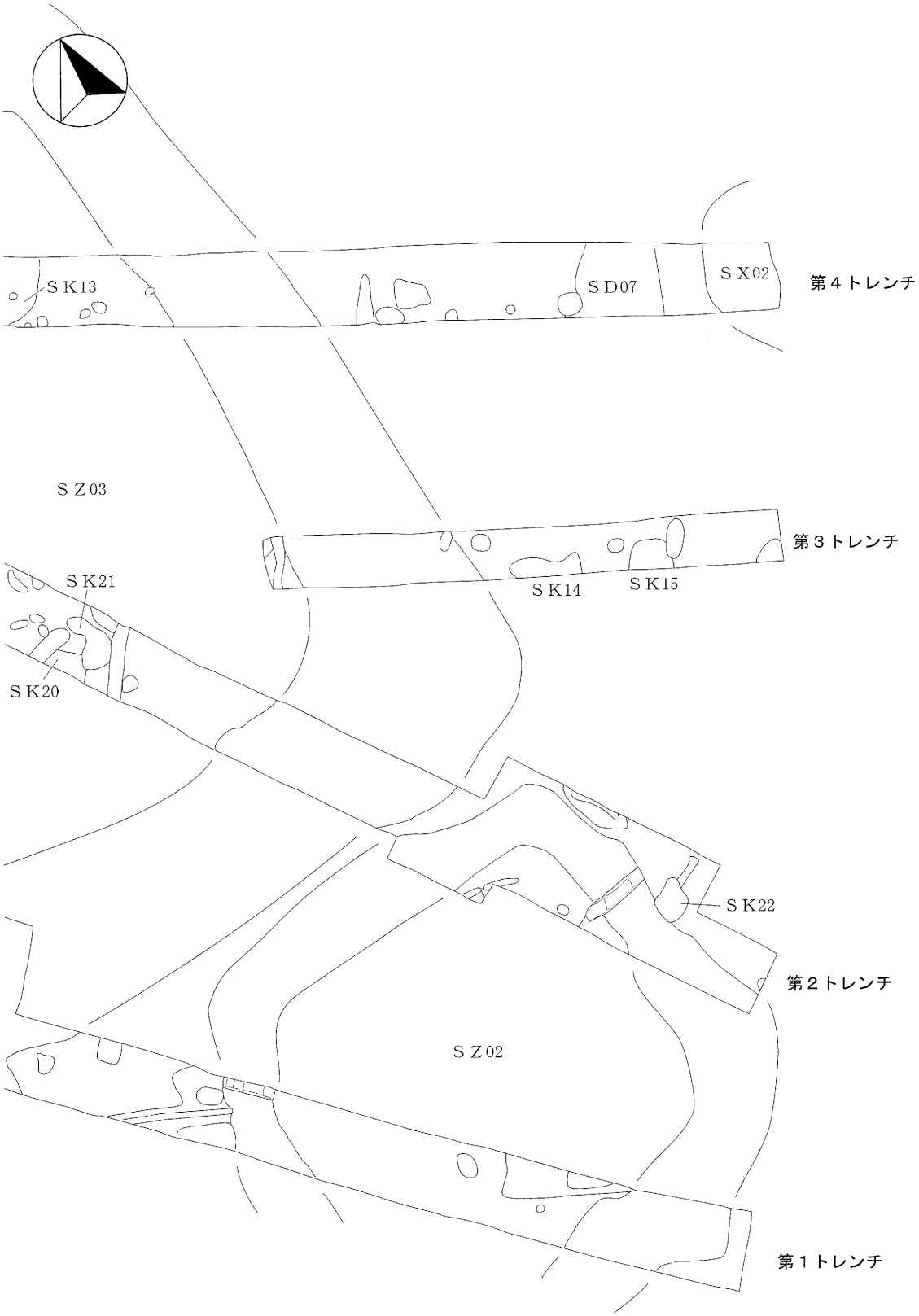


第５図　石塚遺跡きぼう地区北東部遺構図（１／200）



第６図　石塚遺跡きぼう地区南西部遺構図（１／200）

0　5　10m



第７図　石塚遺跡きぼう地区南東部遺構図（１／200）

0　5　10m

Ⅱ　検出遺構

1．古墳

古墳ＳＺ01（石塚１号墳）

調査地区第１トレンチの北西部で検出された。古墳（石塚１号墳）の北西端部と思われる。古墳の周溝部のみ検出しており盛土（封土）は確認していない。周溝は南西から南東方向へ屈曲し、確認した規模は北西～南東方向に9.0m、北東～南西方向に2.5mで、深さは78cmを計る。南東側、南西側は調査地区外へ延びる。

昭和61年度の都市計画道路の調査では「コの字」形に巡る周溝からなる石塚１号墳が確認されている。今回検出したのは周溝北側の隅部と思われる。墳形は前方後方墳と推定され、その後方部とされている。一辺は約23mとなる。昭和60年の試掘調査では北西側の隣接地で古墳時代前期の土器が出土している。規模は上面幅3.75～4.85m、底面幅2.5～3.1mで、深さは90cm。周溝内の土層は以下の通りである。

第１層：第１層、暗褐色粘質土が主体となる層、中世の遺物包含層。

第２層：第２層、黒灰色粘質土が主体となる層。

第３層：第３～７層。黒色粘質土と黒灰色粘質土が互層となって堆積している。

周溝の北側には古墳ＳＺ03の周溝と思われる溝と交わっており、土層断面の観察では切合い関係は認められないことから、ほぼ同時期に築造されたと考えられる。周溝からの出土遺物は、弥生土器、土師器である。

古墳ＳＺ02

調査地区第１トレンチの中央部、南東隅部、第２トレンチの南東部で検出された。遺構覆土が共通していることから同じ遺構と判断した。古墳乃至方形周溝墓の北側、南側の一部と思われる。周溝部のみ検出しており盛土（封土）は確認していない。周溝は第２トレンチで南西から南東方向へ屈曲し、第２トレンチ南側で内側屈曲し、第１トレンチ南側で交わるものと思われる。南東側、南西側は調査地区外へ延びる。規模は上面幅1.5～2.15m、底面幅0.5～1.0mで、深さは26～30cmを計る。墳形は方墳と推定され、一辺は約14mとなる。周溝内の土層は以下の通りである。

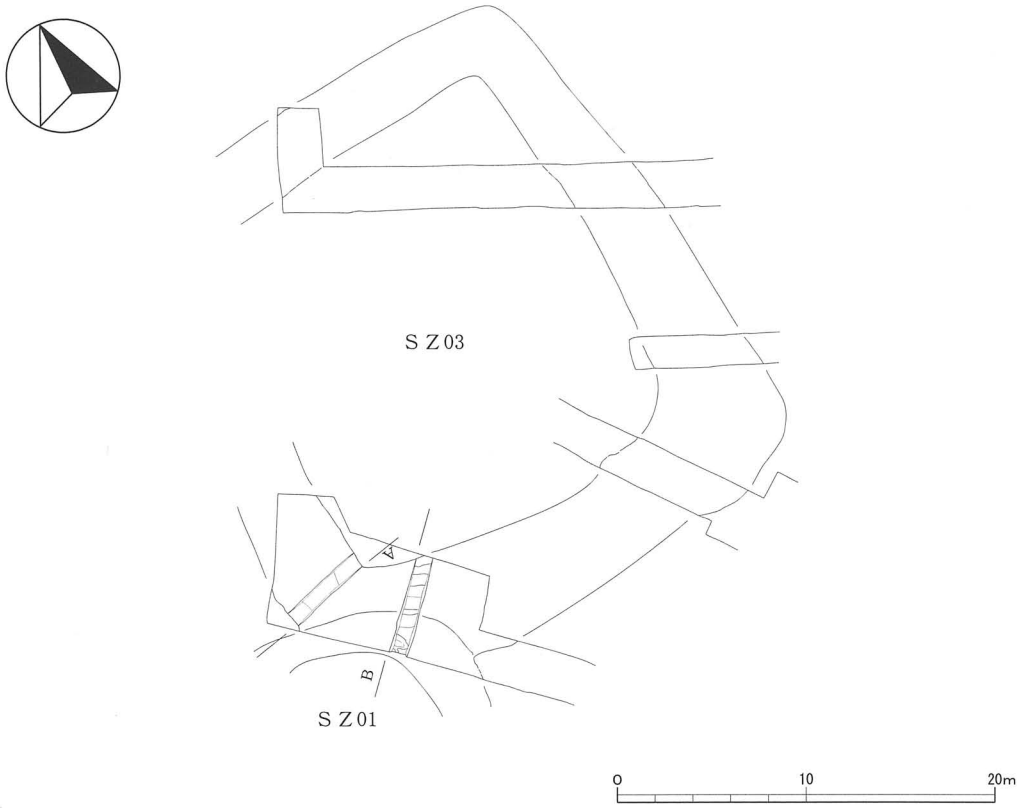
第１層：第１層、暗褐色粘質土が主体となる層、中世の遺物包含層。

第２層：第２層、黒褐色粘質土が主体となる層。

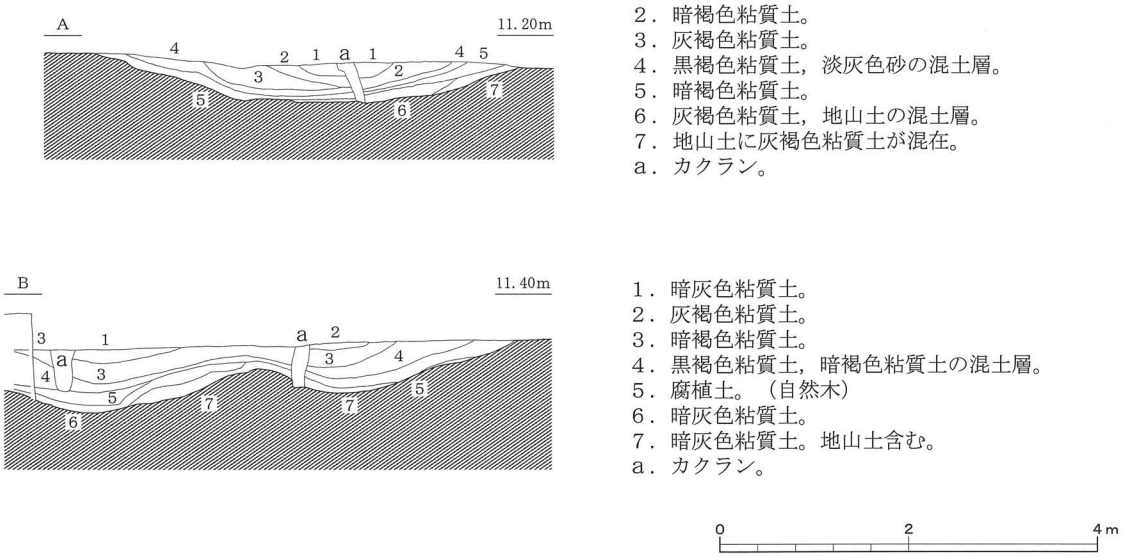
周溝の北側には前方後方墳と思われる古墳ＳＺ03の周溝と近接している。周溝からの出土遺物は、弥生土器、土師器である。周溝上層では流れ込みと思われる珠洲が出土している。

古墳ＳＺ03

調査地区第１トレンチの北西部、第２トレンチの中央部、第３トレンチの西半部、第４トレンチの中央部西端部で検出された。遺構覆土が共通していることから同じ遺構と判断した。古墳乃至方形周溝墓と思われる。古墳の周溝部のみ検出しており盛土（封土）は確認していない。検出状態では、周溝は第１トレンチ北西部で屈曲し、北西、北東方向へ延びている。第２トレンチ南側で北側へ屈曲し、第４トレンチ北側へ延びた後、西側へ屈曲して、「コの字」形に巡るものと想定する。規模は上面幅3.5～5.7m、底面幅0.5～2.2mで、深さは51～55cmを計る。北側、南西側は調査地区外へ延びるものと思われる。



第８図　石塚遺跡きぼう地区古墳ＳＺ01・03号墳遺構図（１／400）



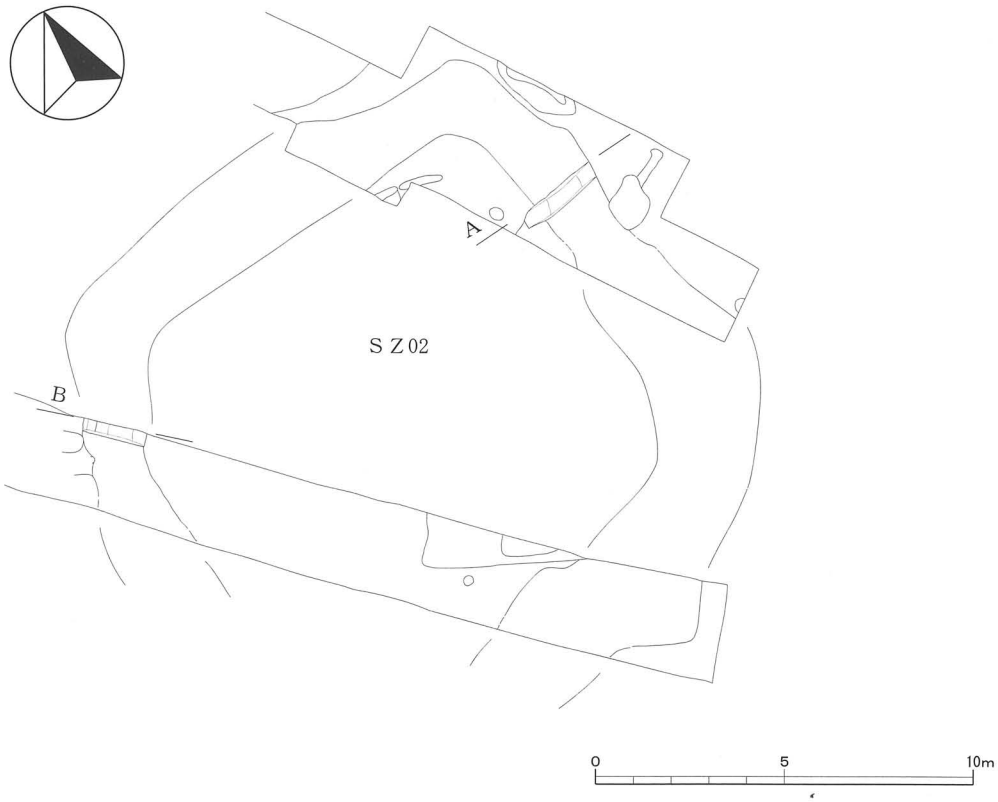
A

1．灰褐色砂質土。
2．暗褐色粘質土。
3．灰褐色粘質土。
4．黒褐色粘質土，淡灰色砂の混土層。
5．暗褐色粘質土。
6．灰褐色粘質土，地山土の混土層。
7．地山土に灰褐色粘質土が混在。
a．カクラン。

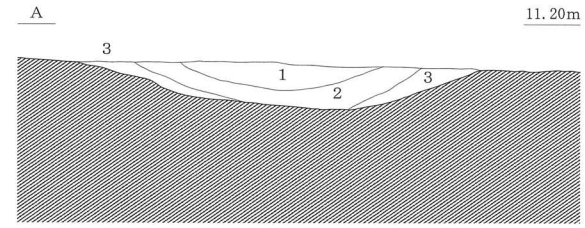
B

1．暗灰色粘質土。
2．灰褐色粘質土。
3．暗褐色粘質土。
4．黒褐色粘質土，暗褐色粘質土の混土層。
5．腐植土。（自然木）
6．暗灰色粘質土。
7．暗灰色粘質土。地山土含む。
a．カクラン。

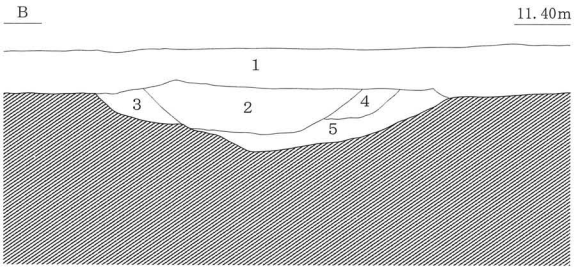
第９図　石塚遺跡きぼう地区古墳ＳＺ01・03号墳土層断面図（１／80）



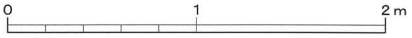
第10図　石塚遺跡きぼう地区古墳ＳＺ02号墳遺構図（１／200）



１．暗褐色粘質土。炭化物含む。
２．黒褐色粘質土。炭化物含む。
３．黒褐色粘質土。地山ブロック含む。



１．表土。
２．暗褐色粘質土。
３．暗褐色粘質土に暗灰色粘質土が混在。
４．暗灰色粘質土。炭化物含む。
５．黒褐色粘質土、地山ブロック、炭化物含む。



第11図　石塚遺跡きぼう地区古墳ＳＺ02号墳土層断面図（１／40）

墳形は前方後方墳と推定され、その後方部と思われる。一辺は約23.5mとなる。周溝内の土層は以下の通りである。

第１層：第１層、暗褐色粘質土が主体となる層、中世の遺物包含層。

第２層：第２層、黒灰色粘質土が主体となる層。

第３層：第３～７層。黒色粘質土と黒灰色粘質土が互層となって堆積している。

周溝の南西側には古墳ＳＺ01の周溝と接しており、土層断面の観察では特に切合い関係は認められなかった。ほぼ同時期に築造されたと考えられる。周溝からの出土遺物は、弥生土器、土師器である。

２．土坑

土坑ＳＫ01

調査地区北西部、第８トレンチの北西端部で検出された。平面形は不整台形を呈し、規模は長軸4.7m、短軸1.6m以上を計る。北側で調査地区外へ、南側で第８トレンチ外へ拡がる。

土坑ＳＫ02

調査地区北西部、第８トレンチの北西部で検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸6.4m、短軸1.6m以上を計る。北側で調査地区外へ、南側で第８トレンチ外へ拡がる。

土坑ＳＫ03

調査地区北部、第８トレンチの中央部で検出された。平面形は不整台形を呈し、規模は長軸5.0m、短軸1.9m以上を計る。北側で調査地区外へ、南側で第８トレンチ外へ拡がる。

土坑ＳＫ04

調査地区北東部、第８トレンチの南東部で検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸2.1m、短軸0.8mを計る。東側でＳＤ01と接する。

土坑ＳＫ05

調査地区北部、第７トレンチの中央部で検出された。平面形は不整円形を呈し、規模は長軸0.9m、短軸0.6mを計る。南側でＳＫ06と接する。

土坑ＳＫ06

調査地区北部、第７トレンチの中央部で検出された。平面形は不整円形を呈し、規模は長軸0.8m、短軸0.7mを計る。北側でＳＫ05と接する。

土坑ＳＫ07

調査地区北部、第７トレンチの中央部で検出された。平面形は不整円形を呈し、規模は長軸0.8m、短軸0.7mを計る。

土坑ＳＫ08

調査地区中央部東、第６トレンチの南東部で検出された。平面形は不整長方形を呈し、規模は長軸2.2m、短軸1.8m以上を計る。北側、南側で第６トレンチ外へ拡がる。

土坑ＳＫ09

調査地区中央部東、第５トレンチの南東部で検出された。平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸1.2m、短軸0.4mを計る。

土坑ＳＫ10

調査地区東部、第５トレンチの南東端部で検出された。平面形は不整台形を呈し、規模は長軸1.6m以上、短軸0.2m以上を計る。北側、南側は第５トレンチ外に、東側は調査地区外に拡がる。

土坑ＳＫ11

調査地区西部、第４トレンチの北西部で検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸2.4m、短軸1.6mを計る。南側は第４トレンチ外に拡がる。南東側でＳＫ12に切られる。

土坑ＳＫ12

調査地区西部、第４トレンチの北西部で検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸1.5m、短軸0.5m以上を計る。南側は第４トレンチ外に拡がる。北西側でＳＫ11を切る。

土坑ＳＫ13

調査地区中央部、第４トレンチの北西部で検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸2.55m、短軸1.05m以上を計る。北側、南側は第４トレンチ外に拡がる。トレンチ中央でピットに切られる。

土坑ＳＫ14

調査地区南東部、第３トレンチ南東部で検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸2.4m、短軸0.55m以上を計る。南側は第３トレンチ外に拡がる。

土坑ＳＫ15

調査地区南東部、第３トレンチの南東部で検出された。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸1.45m、短軸1.0m以上を計る。南側は第３トレンチ外に拡がる。北東側でピットに切られる。

土坑ＳＫ16

調査地区南西部、第２トレンチの北西部で検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸3.55m以上、短軸0.75mを計る。北東側は第２トレンチ外に拡がる。南側でＳＫ17、18に切られる。

土坑ＳＫ17

調査地区南西部、第２トレンチの北西部で検出された。平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸1.4m、短軸0.85mを計る。北側でＳＫ16を、東側でＳＫ18を切る。

土坑ＳＫ18

調査地区南西部、第２トレンチの北西部で検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸1.6m、短軸0.6mを計る。北側でＳＫ16を切り、東側でＳＫ17に切られる。

土坑ＳＫ19

調査地区南西部、第２トレンチの北西部で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸2.1m以上、短軸1.15mを計る。南側は第２トレンチ外に拡がる。東側でピットに切られる。

土坑ＳＫ20

調査地区南西部、第２トレンチの中央部で検出された。平面形は台形を呈し、規模は長軸1.5m、短軸0.7m以上を計る。南西側は調査地区外に拡がる。北西側でピットに、北東側でＳＫ21に切られる。

土坑ＳＫ21

調査地区南西部、第２トレンチの中央部で検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸1.3m、短軸0.85mを計る。南西側でＳＫ20を切り、東側でピットに切られる。

土坑ＳＫ22

調査地区南東部、第２トレンチの南東部で検出された。平面形は不整形を呈し、規模は長軸1.5m、短軸1.1mを計る。西側でＳＺ02の周溝東側中央を切り、北東側でピットを切る。

３．溝状遺構

溝ＳＤ01

調査地区北東部、第８トレンチの南東端部で検出された。北東～南西方向に走る。規模は幅1.8～2.6m、長さ1.5m以上を計る。北東側で調査地区外へ、南西側で第８トレンチ外へ延びる。

溝ＳＤ02

調査地区北部、第７トレンチの北西部で検出された。南北方向に走る。規模は幅3.5～4.1m、長さ1.8m以上を計る。ＳＤ03と隣接して走る。北側、南側は第７トレンチ外へ延びる。

溝ＳＤ03

調査地区北西部、第７トレンチの北西部で検出された。北～南方向に走る。規模は幅1.1～1.3m、長さ1.9m以上を計る。ＳＤ02と隣接して走る。北側、南側は第７トレンチ外へ延びる。

溝ＳＤ04

調査地区西部、第６トレンチの北西端部で検出された。北～南西方向に湾曲して走る。規模は幅1.2～1.5m、長さ4.9m以上を計る。北側、南西側は第６トレンチ外へ延びる。

溝ＳＤ05

調査地区西部、第５トレンチの北西部で検出された。東西方向に走る。規模は幅0.4～0.7m、長さ1.7m以上を計る。南側でピットに切られる。北東側は調査地区外へ延びる。

溝ＳＤ06

調査地区中央部、第５トレンチの北西部で検出された。北東～南西方向に走る。規模は幅0.6～1.7m、長さ1.7m以上を計る。北東側、南西側は第５トレンチ外へ延びる。

溝ＳＤ07

調査地区東部、第４トレンチの南東部で検出された。北東～南西方向に走る。規模は幅2.1～2.7m、長さ2.4m以上を計る。。西側でピットに切られる。北東側、南西側は第５トレンチ外へ延びる。

４．凹地

凹地ＳＸ01

調査地区北東部、第６、第７トレンチの南東部で検出された。北側は第７トレンチ外へ、南側は第６トレンチ外へ延びる。今回は全体を把握していないので凹地とした。

凹地ＳＸ02

調査地区東部、第４トレンチの南東端部で検出された。北側、南側は第４トレンチ外へ、東側は調査地区外へ延びる。今回は全体を把握していないので凹地とした。

Ⅲ　出土遺物

1．土器類

弥生土器

甕口縁部　図面01－1001～1006。1001・1002、1005・1006は口縁部内面に刷毛目状工具による櫛描羽状列点文が付く。1003・1004は口端部外面に刻み目文が付く。

壺底部　図面01－1007・1008。1007は外面が刷毛目を基調とし、一部ナデである。内面はナデを基調とし、胴上部は刷毛目である。1008は外面が刷毛目を基調とし、一部磨きを施す。

甕胴部　図面01－1009。内外面ともに刷毛目を基調とし、内面の一部はナデである。

甕胴底部　図面01－1010。外面は刷毛目である。一部は被熱により剥離し、煤が付着している。内面はナデである。

土師器

椀　図面01－1011。椀の口縁部である。内外面に赤彩されている。

須恵器

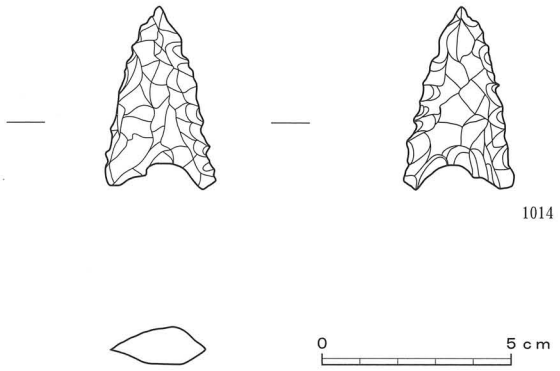
杯　図面01－1012。杯の口縁部である。

珠洲

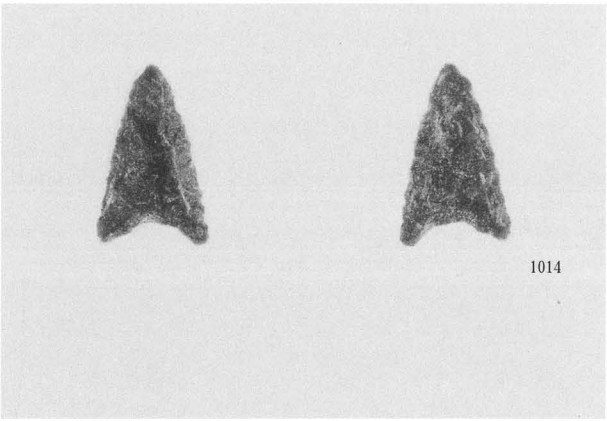
擂鉢　図面01－1013。擂鉢の口縁部である。

2．石製品

石鏃　第12・13図－1014。無茎石鏃である。



第12図　石塚遺跡きぼう地区石製品実測図（実大）



第13図　石塚遺跡きぼう地区石鏃（約実大）

Ⅳ 結 語

石塚遺跡では、北側で実施した都市計画道路築造に伴う調査をはじめ、その他小規模な調査により、弥生時代中期、古墳時代前期、中世を主体とした遺跡であることが確認されている。遺跡南東側一帯を中心に遺跡内容の把握が進展しつつある。今回の調査では、遺跡北東側においても弥生時代中期、中世の遺物を確認した。また、新たな古墳が検出され、石塚古墳群の北側への広がりが確認された。

弥生、古墳時代の遺構・遺物

検出された遺構の大半は弥生時代中期と古墳時代前期に属すると思われる。石塚古墳群１号墳と新規に確認された古墳２基は、全体像は確認できないものの、それぞれ東西方向と南北方向とを意識してつくられた可能性があり、配置に規格性を窺うことができる。なお、石塚01号墳と03号墳の相互に周溝が交わる箇所の一部を断ち割り、土層の観察を行ったところ明確な切合い関係は見られなかった。時期差は少なくほぼ同時期の築造と思われる。周溝の部分的な検出に止まったため今後の調査に検討が必要である。

また、正式に公共座標を設定した測量図ではないので、任意の測量図を高岡市発行の２千五百分の１の都市計画図に当てはめ、正確ではないものの大まかな方位を割り出した。

中世の遺構・遺物

中世に属する遺構は、検出状態からは明確に区別することができなかった。遺物は調査地区南側を中心に包含層から散発的に出土している。今回の調査地区南側で実施した都市計画道路下伏間江福田線の調査では井戸跡などの中世の遺構・遺物が確認されており、今回検出した遺構の内、この時期に含まれるのものが存在する可能性がある。

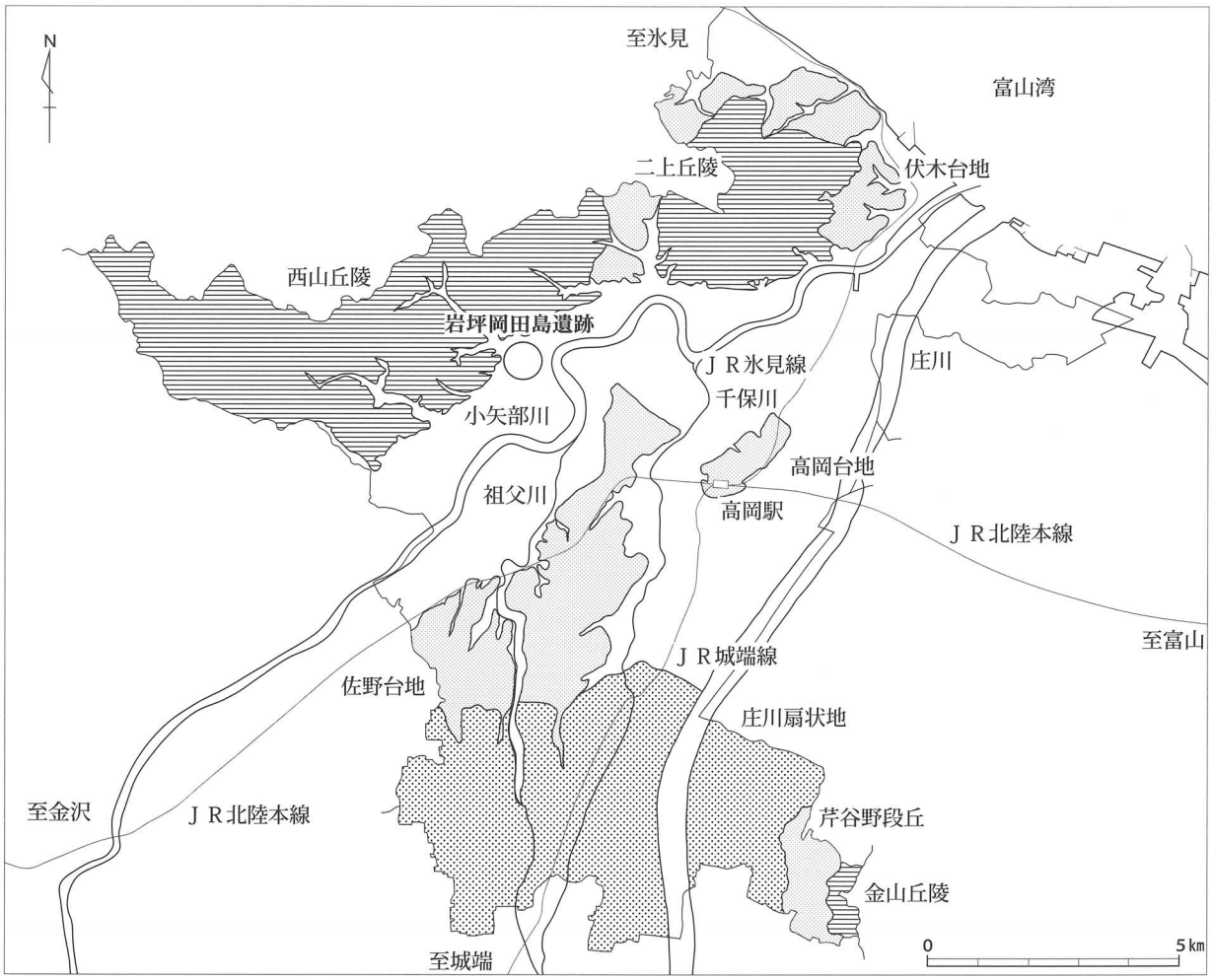
出土遺物は弥生時代中期・後期と中世のものが大半を占めている。奈良平安時代の遺物はきわめて少ない。

今回の調査地区は石塚遺跡の北東部にあたる。この周辺が遺跡範囲と考えられた。弥生時代・古墳時代・中世の遺物が確認されたことで遺跡範囲がさらに北側へ広がるものと思われる。

また、古墳の中には調査地区の外へ拡がるものもあることから、調査地区周辺、遺跡北東部一帯に未確認の古墳が分布している可能性が高まった。

2．岩坪岡田島遺跡

―　三芝硝材地区の調査　―

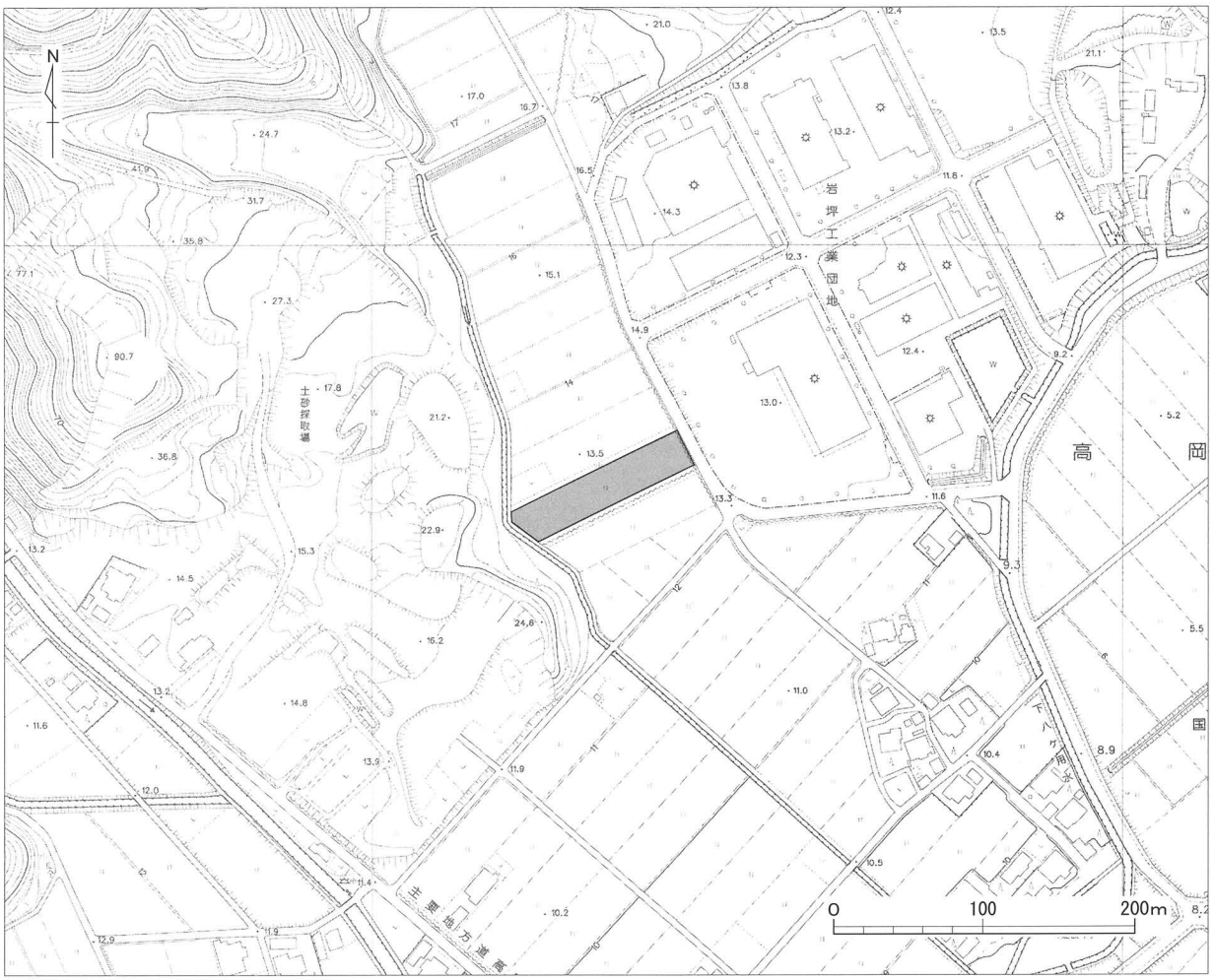


第14図　岩坪岡田島遺跡位置図（１／15万）

Ⅰ 序　説

遺跡概観

「岩坪岡田島遺跡」は、高岡市街地の北西郊、ＪＲ高岡駅の北西約4.6kmに位置する。遺跡東側を小矢部側が蛇行しながら南西から北東方向へ流れる。北西側一帯には西山丘陵が広がる。遺跡南東側を主要地方道小矢部伏木港線と能越自動車道が南西から北東方向に走る。小矢部川により形成された沖積低地と標高９～10mを計る微高地と丘陵の開析谷に位置する。丘陵の山麓では、古代には伏木の越中国府へ向けて北陸道が走っていたとされる。近世以降は北陸街道の脇往還である氷見往来や山根道が通っていた。佐加野には佐加野駅が置かれ、小矢部川の水運と共に交通の要衝として機能した。なお、当遺跡については、平成10年度に能越自動車道建設に伴う分布調査・試掘調査が実施されたことにより確認され、新たに「岩坪岡田島遺跡」として命名されたものである。また、南西側の沖積低地では手洗野赤浦遺跡が新規に確認されている。



第15図　岩坪岡田島遺跡三芝硝材地区位置図（１／5,000）

周辺には、遺跡北西側の丘陵斜面に頭川城ヶ平横穴墓群がある。昭和57年に土砂採掘中に横穴墓が発見され、昭和57・58年度に発掘調査が行われた。20基の横穴墓からなり、出土遺物から飛鳥時代を中心に築造されたものとされる。平成10～12年度の調査では新たに３基の横穴墓が確認された。頭川集落の位置する谷間を南東方向に流れる頭川川（外古川）の西側には、弥生時代～中世にかけて営まれた間尽遺跡がある。天王山式土器が出土したことで知られる。この背後の丘陵上には、倉谷古墳群、安居山古墳群、四十九古墳群等が位置している。当遺跡の北西側約２㎞には須田藤の木遺跡があり、古代の東大寺領荘園「須加荘」の比定地とされている。中世では、安居山城跡があり、頭川城跡と比定する説がある。元亨３年（1323年）に創建された県内最古の曹洞宗寺院である信光寺がある。遺跡の範囲は、南北730ｍ×東西480ｍを計る。

調査に至る経緯

平成15年７月に高岡市農業委員会からの照会で、当遺跡における農地転用と資材置場および簡易舗装駐車場建設計画を知るところとなった。このため、施主の三芝硝材株式会社と協議、承諾を得て、試掘調査を実施するに至った。調査地区は岩坪集落の北側、西山丘陵の開析谷の入口にあたり、岩坪工業団地の南西側に位置する。

調査経過

発掘調査は平成15年10月１日から同年10月８日まで実施した。表土除去はバックホーで行い、調査地区内に積み上げた。当初、試掘坑（トレンチ）を３箇所設定した。調査地区中央に南北方向に走る埋没谷がありこれを挟んで調査地区西側と東側において遺構や遺物を検出した。そこで改めて北東側のトレンチの拡張を行い、４つ目のトレンチを設定するなどして、重点的にこの範囲の遺構の確認に努めた。その後は、遺構の検出をはじめ、この確認や記録といった一連の作業を順次行った。今回は試掘調査のため遺構については検出面での確認にとどめ、遺構の掘下げ調査は行っていない。また、公共座標は設定せず、任意の測量である調査対象面積は3,223㎡で、調査面積は527㎡である。

基本層序

基本層序は、調査地区東側・西側では、厚さ20㎝の表土（耕作土）の下に、上層から厚さ20㎝前後の黒褐色粘質土層、厚さ20㎝の暗灰色粘質土層の順に堆積し、黄褐色粘質土乃至青灰色砂質土からなる地山土（基盤層）が現れる。調査地区中央には厚さ20㎝の表土（耕作土）の下に順に、厚さ40㎝前後の暗褐色粘質土層があり、厚さ20㎝の暗灰色砂質土層がある。その下に青灰色砂質土の地山土（基盤層）が現れる。区画整理以前には自然地形の谷であったと思われる。地山土は南側へ向かって緩やかに落ち込んでおり、東側の方が遺構、遺物の依存状態は良好であった。なお、調査地区は区画整理の際に地形の改変が行われていると思われる。

検出遺構

検出した遺構は以下の通りである。

土坑10基（ＳＫ01～10）

溝７条（ＳＤ01～07）

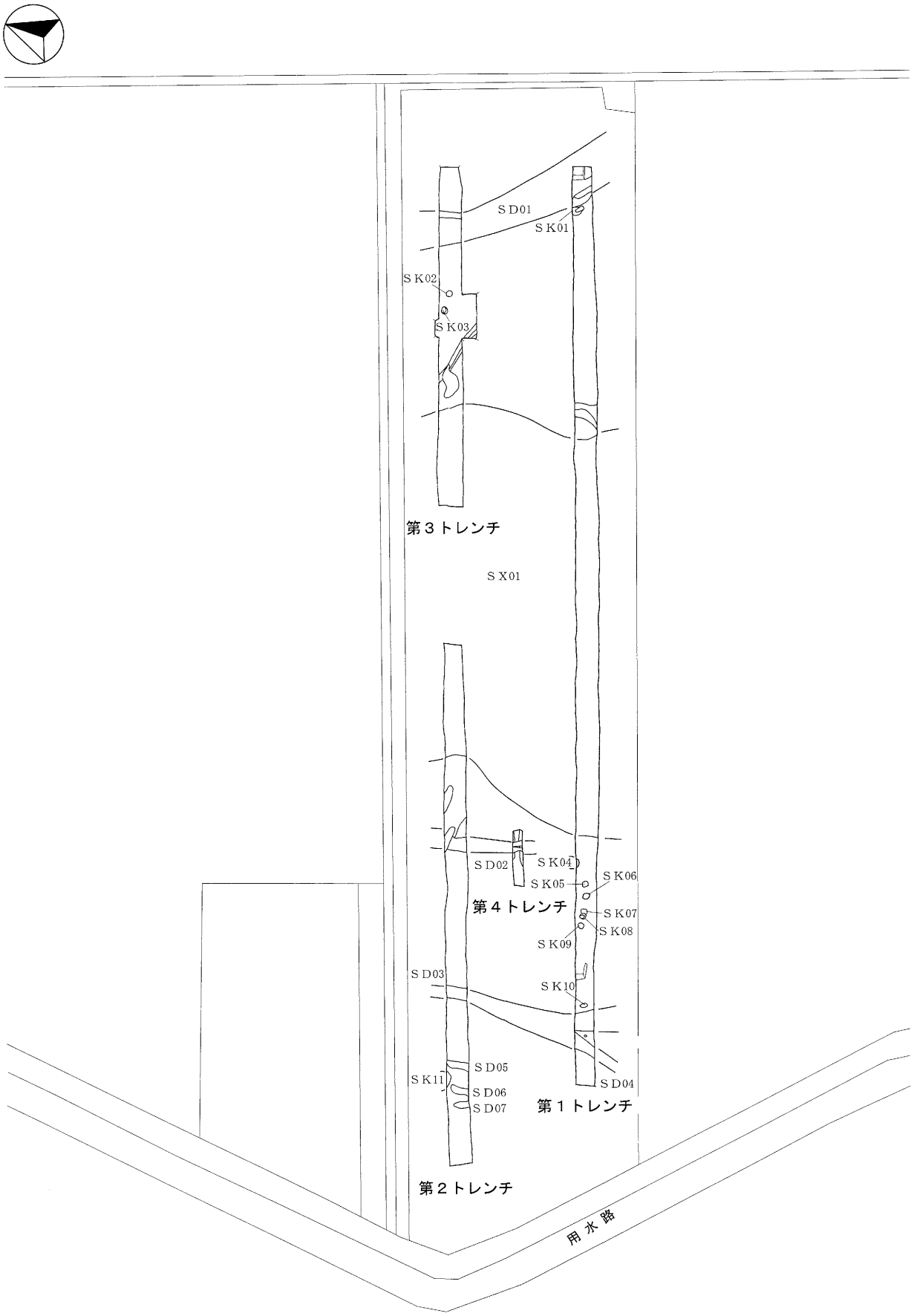
埋没谷１箇所（ＳＸ01）

出土遺物

出土遺物は以下の通りである。

土器・陶磁器類；須恵器、土師器、珠洲、近世陶磁器

土製品；土錘



第16図　岩坪岡田島遺跡三芝硝材地区遺構図（１／600）

0　10　20m

Ⅱ　検出遺構

１．土坑

土坑ＳＫ01

調査地区東部、第１トレンチの東端部で検出した。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.3m以上、短軸0.8mを計る。東側でＳＤ01と接し、北側は第１トレンチ外に拡がる。

土坑ＳＫ02

調査地区東部、第３トレンチの中央部で検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.7m、短軸0.6mを計る。ＳＫ03と共に柵址、掘立柱建物址の掘り方とも考えられるが、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ03

調査地区東部、第３トレンチの中央部で検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.8m、短軸0.7mを計る。ＳＫ02と共に柵址、掘立柱建物址の掘り方とも考えられるが、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ04

調査地区南西部、第１トレンチの西部で検出した。平面形は不定形を呈し、規模は長軸0.9m以上、短軸03m以上を計る。北側は第１トレンチ外に拡がる。

土坑ＳＫ05

調査地区南西部、第１トレンチの西部で検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.7m、短軸0.6mを計る。柵址、掘立柱建物址の掘り方とも考えられるが、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ06

調査地区南西部、第１トレンチの西部で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.8m、短軸0.6mを計る。柵址、掘立柱建物址の掘り方とも考えられるが、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ07

調査地区南西部、第１トレンチの西部で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.7m、短軸0.4mを計る。西側でＳＫ08に切られる。柵址、掘立柱建物址の掘り方とも考えられるが、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ08

調査地区南西部、第１トレンチの西部で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.7m、短軸0.6mを計る。東側でＳＫ07を切る。柵址、掘立柱建物址の掘り方とも考えられるが、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ09

調査地区南西部、第１トレンチの西部で検出された。平面形は円形を呈し、規模は直径0.6mを計る。柵址、掘立柱建物址の掘り方とも考えられるが、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ10

調査地区南西部、第１トレンチの西部で検出された。平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸0.6m、短軸0.5m以上を計る。

土坑ＳＫ11

調査地区南西部、第２トレンチの西側で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.7m以上、短軸0.5m以上を計る。北側は調査地区外へ拡がる。

２．溝状遺構

溝ＳＤ01

調査地区第１・３トレンチの東端部で検出された。検出状態と規模から１本の溝と判断した。直線的に北北西～南東方向に走る。規模は幅3.1～3.9m、深さ1.8m以上、長さ17.6m以上を計る。北側、南側で調査地区外へ延びる。出土遺物は須恵器、土師器である。

溝ＳＤ02

調査地区第２トレンチ中央部西側と第４トレンチの中央部で検出された。検出状態と規模から１本の溝と判断した。北北西～南南東方向に走る。規模は幅1.5m、長さ8.1m以上を計る。北側はカクランに切られ、南側は第４トレンチ南側へ延びる。

溝ＳＤ03

調査地区第１トレンチ西端部と第２トレンチの中央部西側で検出された。検出状態と規模から１本の溝と判断した。ほぼ南北方向に走る。規模は幅1.3～2.2m、長さ15.8m以上を計る。第１トレンチでは二本に分かれると思われる。南側・北側は調査地区外へ延びる。

溝ＳＤ04

調査地区第２トレンチの西端部で検出された。北北西～南南東方向に走る。規模は幅1.2m、長さ3.4m以上を計る。南側で第２トレンチ外へ延びる。

溝ＳＤ05

調査地区第２トレンチの西端部で検出された。北北西～南南東方向に走る。規模は幅0.3～0.8m、長さ2.4m以上を計る。南側で第２トレンチ外へ延びる。

溝ＳＤ06

調査地区第２トレンチの西端部で検出された。北北西～南南東方向に走る。規模は幅0.6m、長さ1.7m以上を計る。南側で第２トレンチ外へ延びる。

溝ＳＤ07

調査地区第２トレンチの西端部で検出された。北北西～南南東方向に走る。規模は幅0.7m、長さ1.7m以上を計る。南側で第２トレンチ外へ延びる。

３．埋没谷

埋没谷ＳＸ01

調査地区中央部、第１トレンチの中央部、第２トレンチ東側、第３トレンチ西側で検出した。自然地形の谷地形と思われる。南・北側は調査地区外へ拡がる。今回は旧地形の検出状態から埋没谷とした。

Ⅲ　出土遺物

1．土器類

土師器［1］古墳時代の土器である。

高杯　図面02－2001～2003。2001は高杯の杯部である。杯部は内外面に赤彩を施す。杯口縁部と底部の境に強い稜が付く。2002は、ほぼ完形を止め、杯部は外上方へ拡がり、脚部は外下方に拡がる。2003は高杯の脚部である。

土師器［2］奈良・平安時代の土師器である。

椀　図面02－2004・2005。2004は椀の口縁部である。内面と口縁部外面は黒色処理される。2005は椀の底部である。底部の切り離し手法は糸切りである。

皿　図面02－2006。皿の底部である。底部の切り離し手法は糸切りである。

甕　図面02－2007。甕の口縁部である。

須恵器

杯A　図面02－2008。高台の付かない杯である。

杯B　図面02－2009。高台の付く杯の底部である。

杯口縁部　図面02－2010。杯の口縁部である。

杯蓋　図面02－2011。杯蓋の天井部・口縁部である。

壺　図面02－2012。壺または瓶類の口縁部である。

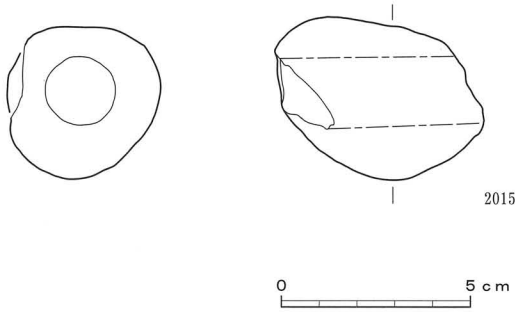
甕　図面02－2013。甕の口縁部である。

珠洲

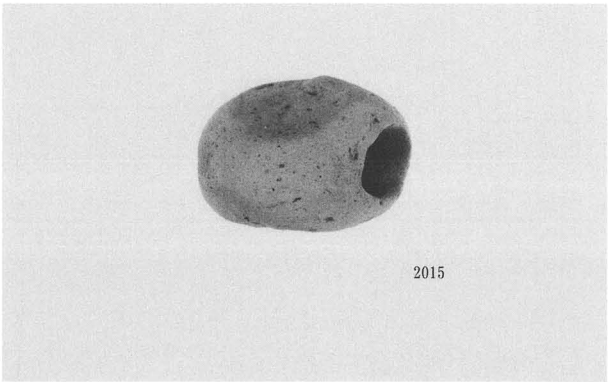
擂鉢　図面02－2014。擂鉢の口縁部である。

2．土製品

土錘　第17・18図－2015。土師質、柱状の土錘である。



第17図　岩坪岡田島遺跡三芝硝材地区土製品実測図（1／2）



第18図　岩坪岡田島遺跡三芝硝材地区土錘（1／2）

Ⅳ 結 語

岩坪岡田島遺跡は、能越自動車道建設に伴い、富山県文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所により平成10年度に分布調査・試掘調査が実施され存在が確認された。平成11年度から13年度にかけて発掘調査が実施され、古代・中世の道路跡や掘立柱建物址などが確認されている。

また、平成11年度には当市教育委員会により能越自動車道にかかる住宅移転の代替地造成に伴う試掘調査が実施された。中世前期の遺物と共に、集落を区画すると思われる大溝や井戸跡が確認されている。

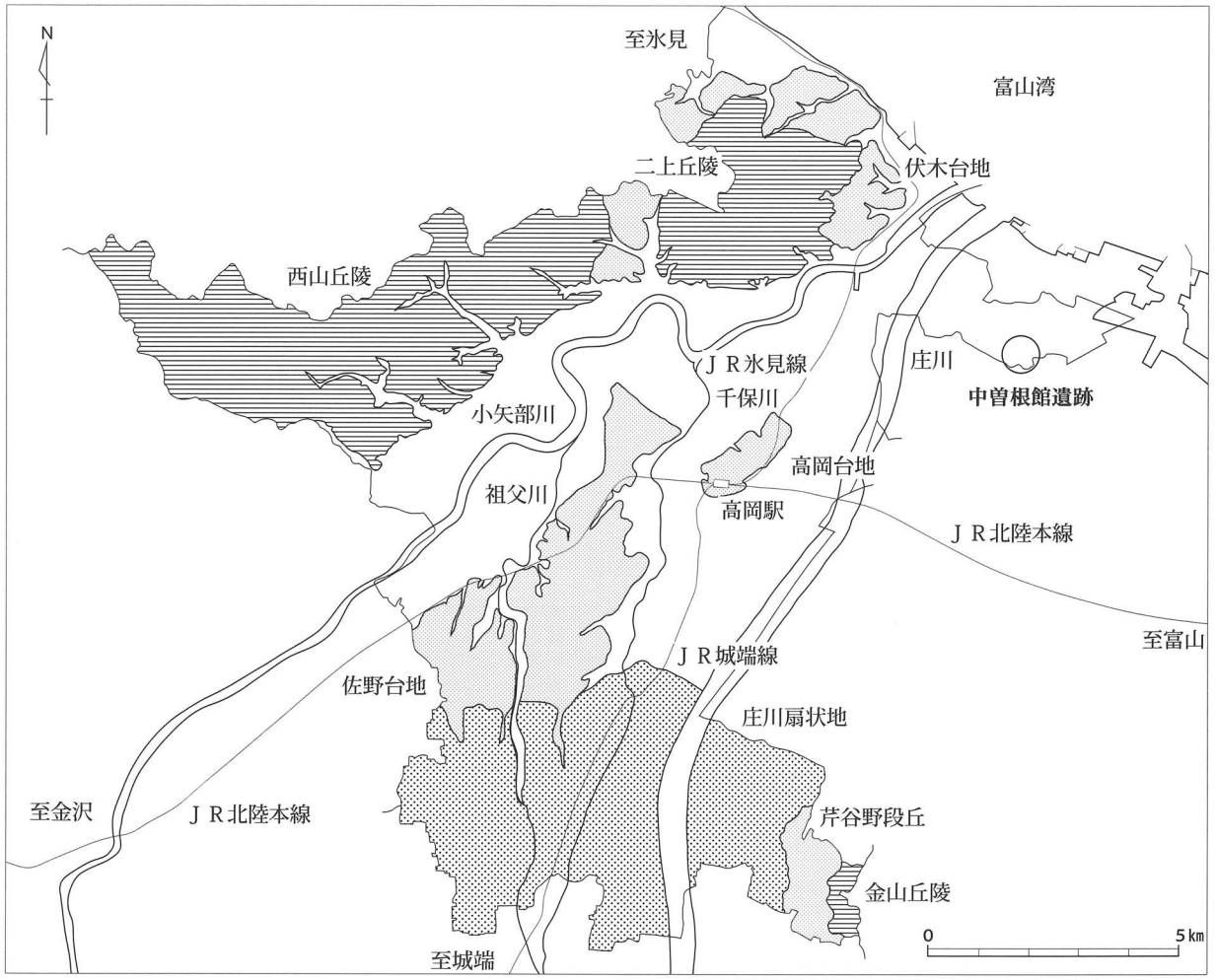
今回の調査は、試掘調査の性格上、全体の把握には限界があるものの、調査地区中央の谷状の落ち込みを挟んで、調査地区東側・西側において遺構、遺物を確認した。検出した遺構は、土坑11基、溝６条である。このうち、溝ＳＤ01は直線的に走る大規模な溝である。検出した範囲が部分的なため全体像は不明であるが何らかの区画する意図をもつ遺構と思われる。出土遺物から時期は奈良平安時代のものと思われる。

また、調査地区内から古墳時代前期、中世の遺物も出土していることから、遺跡内には古墳時代、中世の遺構、遺物も所在しているものと思われる。

今回の調査地区は遺跡の北東部、開析谷の入口部にあたる。遺構の一部は南北方向へと広がりを見せているため、平野部だけでなく、丘陵山麓の開析谷において遺跡の存在が確認された。

３．中曽根館遺跡

― 稲垣地区の調査 ―

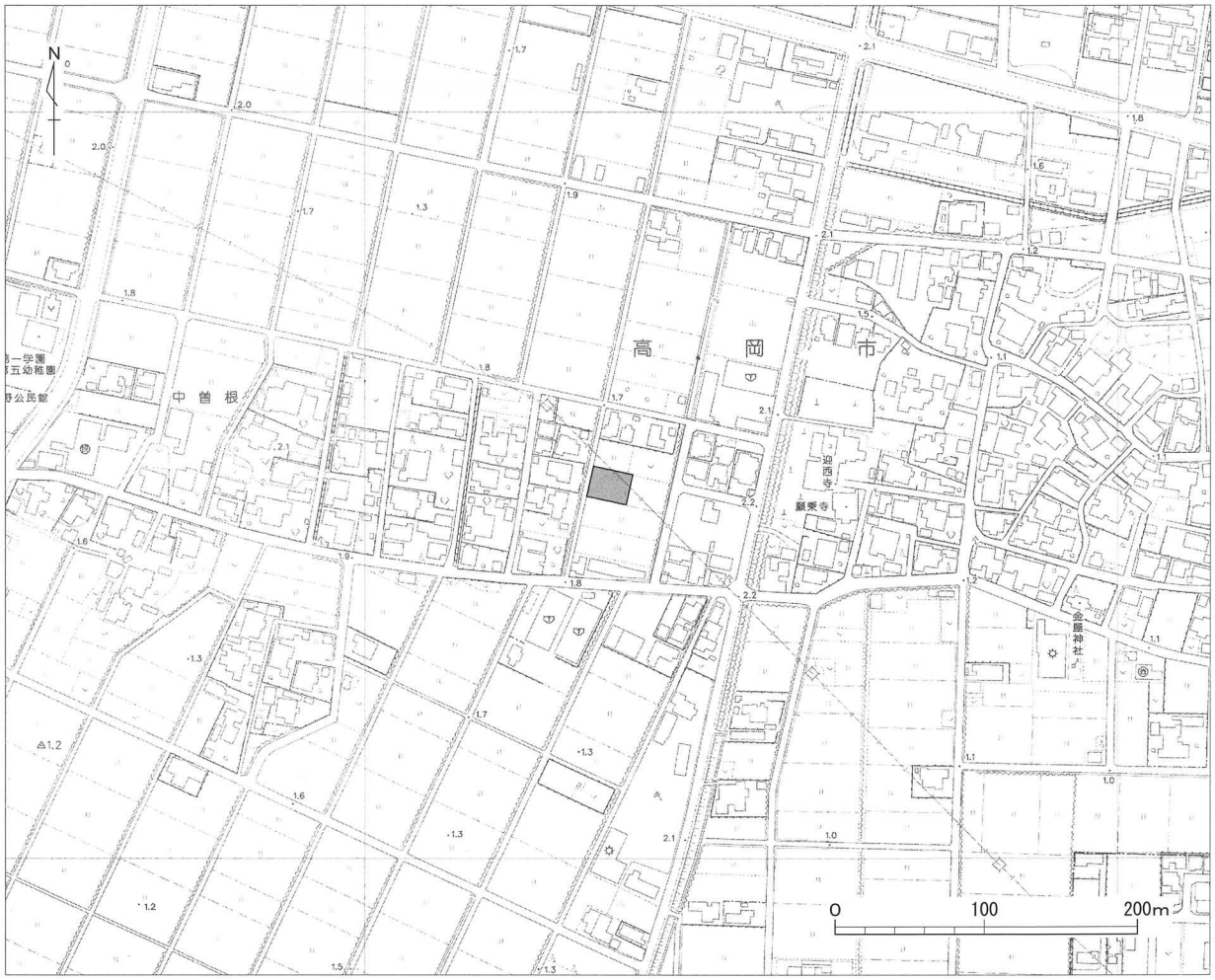


第19図　中曽根館遺跡位置図（１／15万）

Ⅰ　序　　説

遺跡概観

「中曽根館遺跡」は、高岡市街地の北東郊、ＪＲ高岡駅の北東約6.5kmの牧野地区に位置する。中曽根集落の東側に位置する。北側一帯は新湊市の市街地があり、東側には西神楽川が北流し、富山新港と周辺の工業地帯が広がる。富山新港はかつての放生津潟であり、南北約１km、東西約２kmの潟湖であった。周辺は低湿地帯と大小の河川により三角州が形成されていたと思われる。西側には庄川が北東方向に流れる。庄川は明治末から行われた新庄川開削工事により、能町で小矢部川に合流していた流路が牧野地区の西側に変更された。中曽根館遺跡は、これらの河川により形成された沖積低地中の標高１～２ｍを計る微高地上に位置する。当地を含む射水郡北東部は古代末期に「曽根保」があり、新湊市三日曽根・四日曽根地区に比定されている。鎌倉時代には新湊市放生津において越中の守護所が置かれた。南北朝・戦国時代には「姫野保」があり、高岡市姫野地区に比定されている。また、南北朝期には、後醍醐天皇の第８皇子宗良親王が牧野地区に滞在したとする伝承がある。



第20図　中曽根館遺跡稲垣地区位置図（１／5,000）

当遺跡を含む牧野地区一帯の遺跡については、間坂儀三郎氏により資料収集と研究がなされ、当地区における基本研究となっている。その後、平成６年度に当市教育委員会による分布調査の成果をふまえ、遺跡の範囲と内容が総括されている。また、その際には、当遺跡の周囲においても遺跡の範囲確認と変更がなされた。周辺の遺跡では、北側に「諏訪宮」とされてきた神社跡を姫野諏訪社遺跡に名称変更された。西側には西神楽川を挟んで新たに牧野金屋遺跡が確認された。中世鋳物師の存在が知られ、奈良平安時代から中世の遺跡とされる。北東側の牧野小学校東側では、遺跡範囲と名称が変更され、中曽根北遺跡とされた。西側の中曽根集落中心部においては、中曽根遺跡について範囲の確認と総括がなされた。遺跡の主要な時期は弥生時代後期から中世である。また、中曽根西遺跡については木戸口Ａ・Ｂ遺跡を含む範囲を新たに設定した。これは古代から中世にかけて営まれた遺跡である。そして当遺跡については、採集遺物により遺跡の主要な時期は弥生時代後期とされ、この他、奈良平安時代と中世の遺物が確認されている。

遺跡の範囲は、南北400ｍ×東西350ｍを計る。

調査に至る経緯

平成15年３月に施主からの照会で、当遺跡における農地転用と住宅建設計画を知るところとなった。このため、地主の稲垣肇氏と協議し、承諾を得て、試掘調査を実施するに至った。調査地区は、中曽根神社、高岡市立牧野公民館の東側にあり、金屋集落の西側に位置する。遺跡範囲の中央部西側にあたる。

調査経過

発掘調査は平成15年４月14日から同年４月16日まで実施した。表土除去はバックホーで行い、調査地区内に積み上げた。当初、試掘坑（トレンチ）を３箇所設定した。調査地区全域に遺構や遺物を検出した。そこで改めて各トレンチの西側の一部を拡張をして、重点的にこの範囲の遺構の確認に努めた。その後は、遺構の検出をはじめ、この確認や記録といった一連の作業を順次行った。今回は試掘調査のため遺構については検出面での確認にとどめ、必要に応じて部分的に掘下げ、遺構の規模と内容の確認を行った。また、今回は公共座標は設定せず、任意の測量とした。調査対象面積は499㎡で、調査面積は116㎡である。

基本層序

基本層序は、調査地区中央部から北側は、厚さ20㎝の表土（耕作土）の下に、黄褐色砂質土乃至青灰色砂質土からなる地山土が現れる。調査地区内は地山面まで区画整理の際の削平が及んでいると思われる。

検出遺構

検出した遺構は以下の通りである。

土坑11基（ＳＫ01～11）

溝５条（ＳＤ01～05）

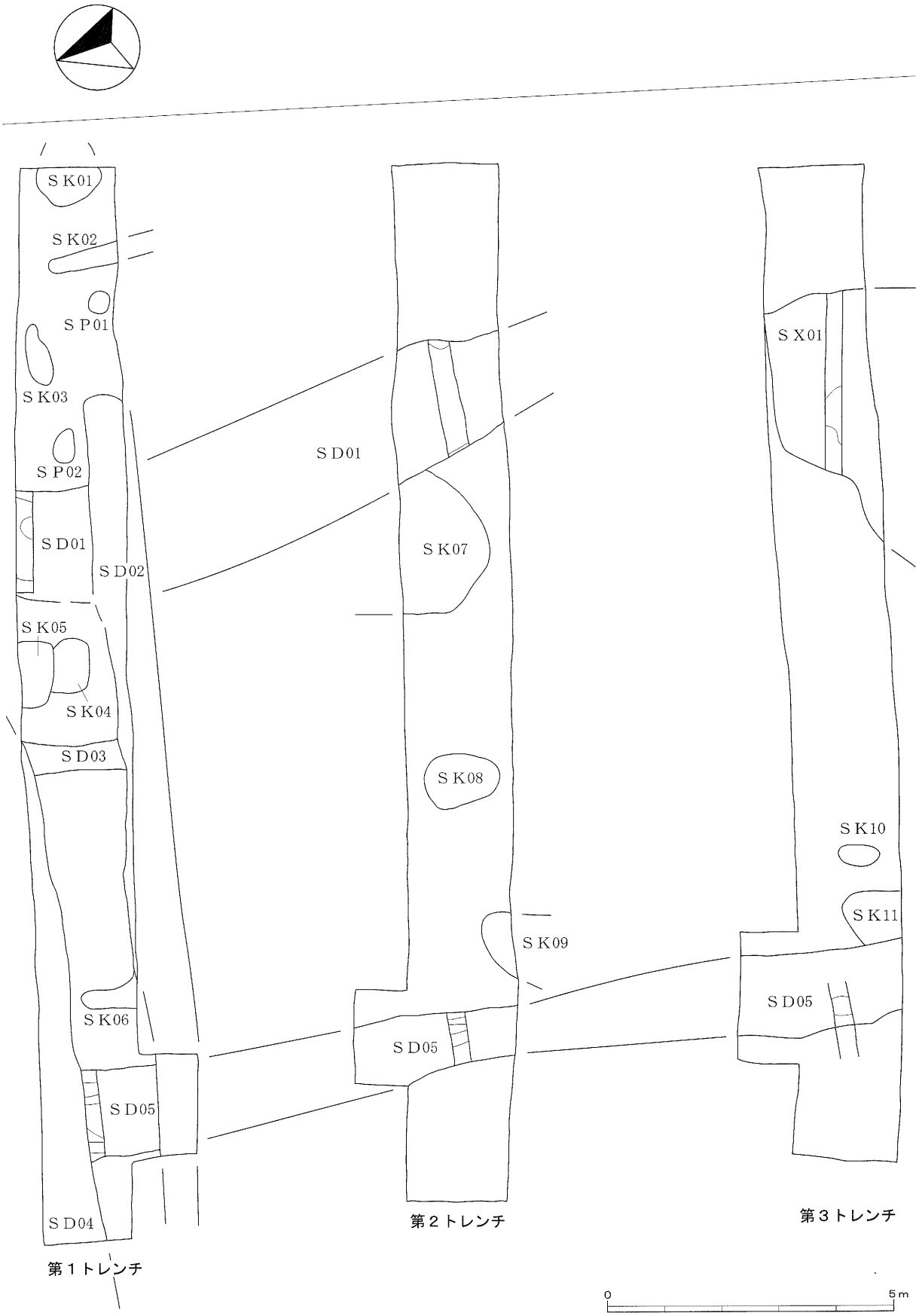
凹地１箇所（ＳＸ01）

この他、第１トレンチからは２基のピット（ＳＰ01・02）を検出した。

出土遺物

出土遺物は以下の通りである。

土器・陶磁器類；弥生土器、須恵器、土師器、珠洲、越中瀬戸



第21図　中曽根館遺跡稲垣地区遺構図（１／100）

Ⅱ　検出遺構

１．土坑

土坑ＳＫ01

調査地区北東部、第１トレンチの東端部で検出した。平面形は不整楕円形である。規模は長軸1.1m、短軸0.8m以上を計る。東側は調査地区外へ拡がる。出土遺物は土師器である。

土坑ＳＫ02

調査地区北東部、第１トレンチの東部で検出された。平面形は不整長方形を呈し、規模は長軸1.2m以上、短軸0.3mを計る。南側は第１トレンチ外へ拡がる。出土遺物は土師器である。

土坑ＳＫ03

調査地区北西部、第１トレンチの東部で検出した。平面形は不整楕円形である。規模は長軸1.1m、短軸0.4mを計る。出土遺物は土師器である。図示した遺物は、第22図－3001である。

土坑ＳＫ04

調査地区北東部、第１トレンチの中央部で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸1.0m、短軸0.6mを計る。北側でＳＫ05に切られる。出土遺物は土師器である。

土坑ＳＫ05

調査地区北東部、第１トレンチの中央部北側で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸1.2m以上、短軸0.6m以上を計る。南側でＳＫ04を切る。北側は調査地区外へ拡がる。

土坑ＳＫ06

調査地区北西部、第１トレンチの西部で検出した。平面形は不整楕円形である。規模は長軸1.0m以上、短軸0.4m以上を計る。出土遺物は土師器である。

土坑ＳＫ07

調査地区中央部、第２トレンチの中央部東側で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸2.5m以上、短軸1.6m以上を計る。東側でＳＤ01に切られ、北側は第２トレンチ外へ拡がる。出土遺物は土師器である。

土坑ＳＫ08

調査地区中央部、第２トレンチの中央部西側で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸1.3m、短軸0.9mを計る。出土遺物は須恵器である。

土坑ＳＫ09

調査地区中央部、第２トレンチの西部で検出した。平面形は不整形である。規模は長軸1.1m以上、短軸0.5m以上を計る。南側は第２トレンチ外へ拡がる。出土遺物は須恵器である。図示した遺物は、第22図－3002である。

土坑ＳＫ10

調査地区南西部、第３トレンチの西部で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸0.7m、短軸0.3mを計る。出土遺物は土師器である。

土坑ＳＫ11

調査地区南西部、第３トレンチの西部で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸1.5m以上、短軸1.

2m以上を計る。西側はＳＤ05に切られ、南側は調査地区外へ拡がる。出土遺物は土師器である。

２．溝状遺構

溝ＳＤ01

調査地区北東部、第１・２トレンチの東側で検出した。北から南南東方向に延びる溝である。規模は幅1.5～1.8m、深さ17cm、長さ9.2m以上を計る。南側は延長部分で第１トレンチのＳＸ01が検出されたが、異なる遺構と判断し、第２トレンチ外へ延びるものと思われる。北側は第１トレンチでＳＤ04に切られた後、調査地区外へ延びる。第２トレンチでは西側でＳＫ07を切る。出土遺物は土師器である。

溝ＳＤ02

調査地区北部、第１トレンチの中央部で検出した。西南西から東北東方向に延びる溝である。規模は幅0.7m以上を計る。一旦トレンチ外へ延びた後、トレンチ西側で同様な遺構を検出した。この部分を加えると長さは13.5m以上となる。東側はＳＤ01を切り、トレンチ東側で途切れる。西側はＳＤ05を切り、さらに調査地区外へ延びる。出土遺物は須恵器、土師器である。

溝ＳＤ03

調査地区北部、第１トレンチの中央部で検出した。東北東から西南西方向に延びる溝である。規模は幅0.5～0.8m、長さ1.7m以上を計る。西側、東側は第１トレンチ外へ延びる。南側はＳＤ02に切られる。北側はＳＤ04に切られる。出土遺物は土師器である。

溝ＳＤ04

調査地区北西部、第１トレンチの北西側で検出した。西北西から東南東方向に延びる溝である。規模は幅1.1m、長さ9.7m以上を計る。西側はＳＤ05を切り、調査地区外へ延びる。東側はＳＤ03を切り、調査地区外へ延びる。出土遺物は須恵器、土師器、越中瀬戸である。図示した遺物は、第22図－3007である。

溝ＳＤ05

調査地区西部、第１～３トレンチの西側で検出した。ほぼ南北方向に延びる溝である。規模は幅0.9～1.6m、深さ36cm、長さ14.6m以上を計る。南側、北側は調査地区外へ延びる。南側はＳＫ11を切る。北側は溝ＳＤ02・04に切られる。出土遺物は須恵器、土師器、珠洲、青磁である。図示した遺物は、第22図－3005、3006である。

３．凹地

凹地ＳＸ01

調査地区南西部、第３トレンチの南東端部で検出した。規模は長軸4.6m以上、短軸1.8m以上、深さ15cmを計る。北側は第３トレンチ北側で途切れる。南側は調査地区外へ広がる。今回は全体を把握していないので凹地とした。出土遺物は土師器である。

Ⅲ　出土遺物

土器類

土師器

壺　第22図－3001。壺の口縁部である。内外面はヘラ磨きを基調とし、赤彩されている。内面の一部に刷毛目が残る。

須恵器

杯Ｂ　第22図－3002。高台の付く杯である。

珠洲

擂鉢　第22図－3003。擂鉢の口縁部である。

壺　第22図－3004。壺の口縁部片である。

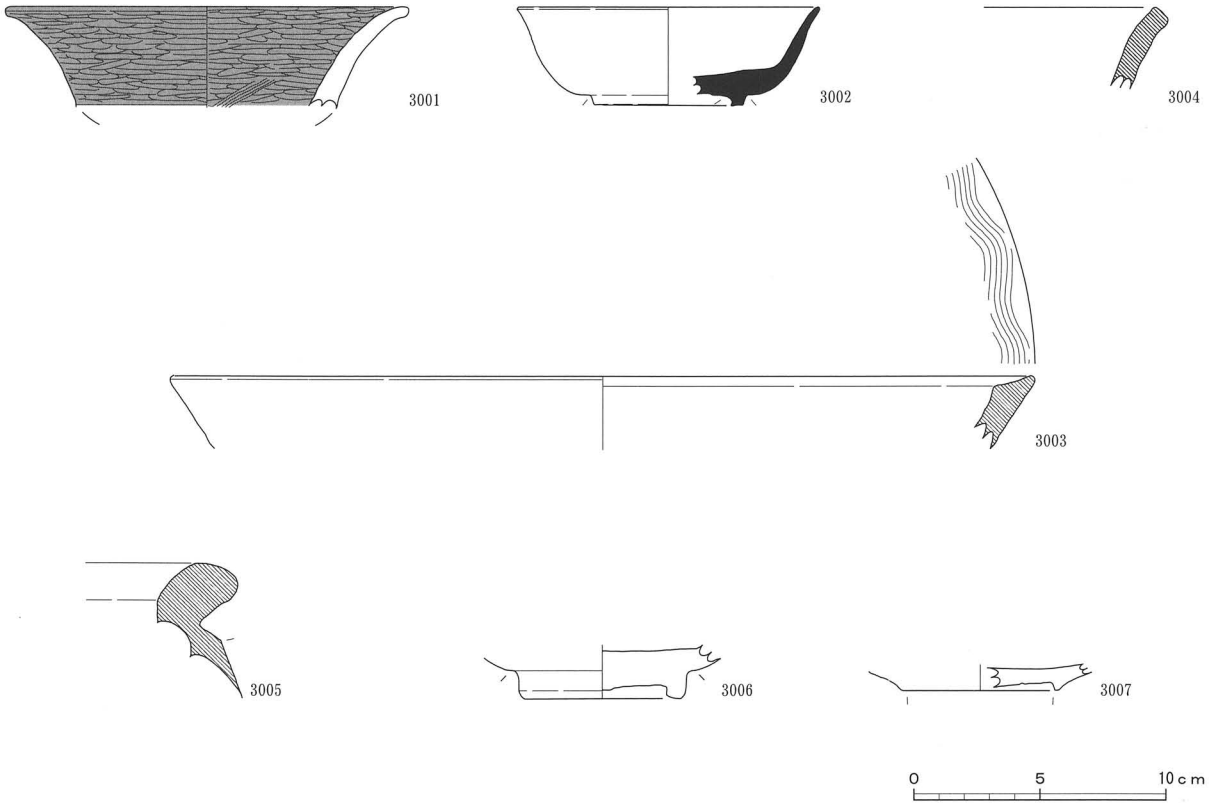
甕　第22図－3005。甕の口縁部片である。

青磁

椀　第22図－3006。椀の底部である。

越中瀬戸

皿　第22図－3007。皿の底部である。



第22図　中曽根館遺跡稲垣地区遺物実測図（１／３）

Ⅳ 結　　語

中曽根館遺跡は、間坂儀三郎氏の「放生津潟西岸の牧野地区内古代遺跡」や「牧野の今昔史」で述べられているように、館畑地点住居址、館遺跡、館住居址等とされたものである。出土遺物は弥生時代後期が中心であるが、珠洲などの中世の遺物も確認されている。

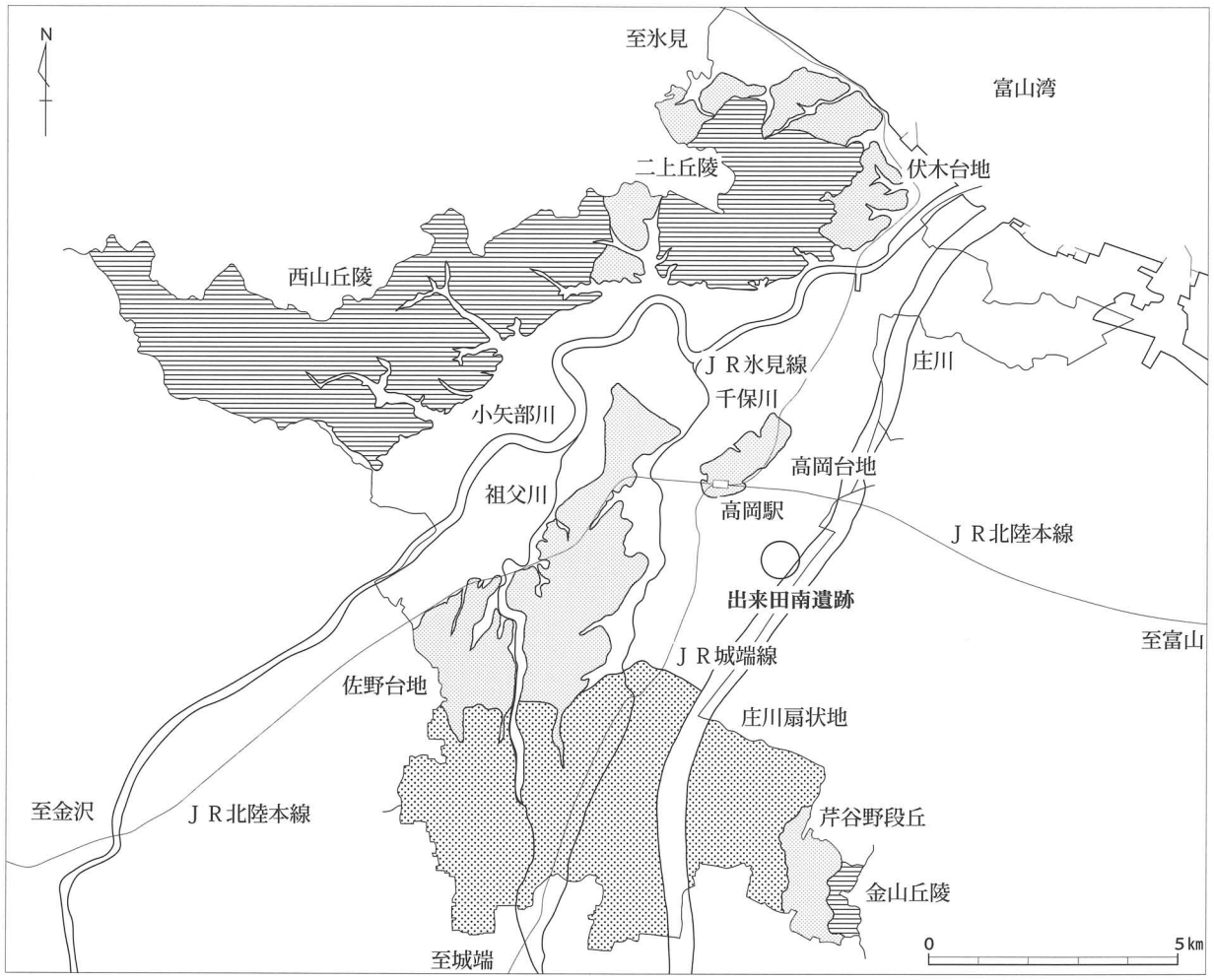
1972年発行の『富山県遺跡地図』では「館遺跡」とされていた。1993年の『富山県埋蔵文化財地図』により中曽根館遺跡とされた。平成６年度に当市教育委員会により埋蔵文化財分布調査を実施した。間坂氏の研究や収集資料を含め遺跡範囲や内容が総括されている。

今回の調査は当遺跡としては初めての発掘調査となる。試掘調査の性格上、全体の把握には限界があるものの、調査地区全域において遺構、遺物を確認し、遺跡の年代と性格の一端が判明した。検出した遺構は、土坑11基、溝５条、凹地１箇所である。このうち、溝ＳＤ01は、直線的にほぼ東西方向に走ることから、何らかのものを区画する意図をもつ遺構と思われる。出土遺物から時期は中世のものと思われる。

また、調査地区内から弥生時代後期、奈良平安時代の遺物も出土していることから、遺跡内には弥生時代奈良平安時代の遺構・遺物も所在しているものと思われる。また間坂儀三郎氏の指摘通り、調査地区周辺において同時期の遺構、遺物が確認される可能性がある。今回の調査地区は遺跡の中央部西側にあたる。遺構は調査地区西側へと広がりを見せているため、遺跡範囲はさらに西側に広がると思われる。

4．出来田南遺跡

― ミタホーム地区の調査 ―



第23図　出来田南遺跡位置図（１／15万）

Ⅰ　序　説

遺跡概観

「出来田南遺跡」は、高岡市域の南東郊、ＪＲ高岡駅の南東約1.3kmに位置する。遺跡の北側には諏訪神社がある。高岡問屋センターの西側、出来田集落の南西側に位置する。東側には庄川が北北東方向に流れ、北西側には地久子川が南西から北東方向に流れる。これらに囲まれた標高8.5mを計る沖積低地である。遺跡の立地する地形は庄川へ向かって段差を持って落ち込む。当遺跡周辺には数々の遺跡が分布している。昭和21年に弥生土器が出土したことにより赤祖父角田遺跡が発見された。昭和45年に高岡問屋センターの団地造成中に縄文土器・土師器・須恵器などが出土し、高岡問屋センター遺跡が確認された。平成２年度に当市教育委員会により周辺一帯の遺跡分布調査を実施した。この調査により当遺跡と井口本江遺跡が確認され、奈良平安時代から中世にかけて営まれた遺跡群である。これらの遺跡は近接していることから、時代によっては一つの遺跡とする見方も考えられる。

第24図　出来田南遺跡ミタホーム地区位置図（１／5,000）

当遺跡では平成11年度から当市教育委員会により遺跡中央部東側において試掘調査が実施された。掘立柱建物址を含む奈良平安時代の遺構や遺物が確認された。その後、現在まで数々の調査が行われている。平成12・13年度の遺跡南東側で実施した調査では、掘立柱建物址や溝などの遺構が検出され、墨書土器を含む奈良平安時代の遺物が多数出土している。これらの調査により、当遺跡では奈良平安時代の遺構や遺物を主体として確認されており、一部中世の遺物も見られることから奈良平安時代～中世に至る複合遺跡と思われる。当遺跡は古代には射水郡域に含まれ、東大寺領の荘園のうち、鳴戸荘、鹿田荘の比定地とする説がある。近年は当遺跡周辺を鳴戸荘に想定する説がある。遺跡範囲は南北170m×東西130mを計る。

調査に至る経緯

平成15年10月に施主からの照会により、当遺跡における住宅建設計画を知るところとなった。施主の株式会社ミタホーム、地主の西岡守明氏との協議、承諾を得て、試掘調査を実施するに至った。調査地区は諏訪神社の南側にあたり、高岡問屋センター団地の東側、出来田集落の南東側に位置する。遺跡の中央部東側にあたる。

調査経過

発掘調査は平成15年10月20日から同年10月27日まで実施した。当初、試掘坑（トレンチ）を２箇所（第１・２トレンチ）設定した。この際、須恵器、土師器などの多数の遺物が出土し、また各トレンチから多数の遺構を検出した。中には柱痕を伴う掘立柱建物址の柱穴と思われる遺構も見られた。そこで遺構、遺物の集中箇所を中心に、トレンチを拡張し遺構の範囲確認に努めた。各トレンチはバックホーにより表土を除去し調査地区内に積み上げた。表土除去後、遺構の検出、確認、記録という一連の作業を行った。今回は試掘調査のため、遺構の掘下げは行っていない。また、公共座標を設定せず、任意での測量である。調査対象面積は799.97㎡、発掘調査面積は181㎡である。

基本層序

平均20cm前後の表土（耕作土）の下に、青灰色砂質土・黄褐色砂質土からなる地山土（基盤層）を確認した。調査地区南側では表土下に、厚さ5cm前後で暗灰色粘質土からなる遺物包含層が堆積している。なお、遺構検出面の状態では、調査地区内は区画整理の際に削平を受けているものと思われる。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。

掘立柱建物址２棟（ＳＢ01・02）

土坑４基（ＳＫ01～04）

溝状遺構２条（ＳＤ01・02）

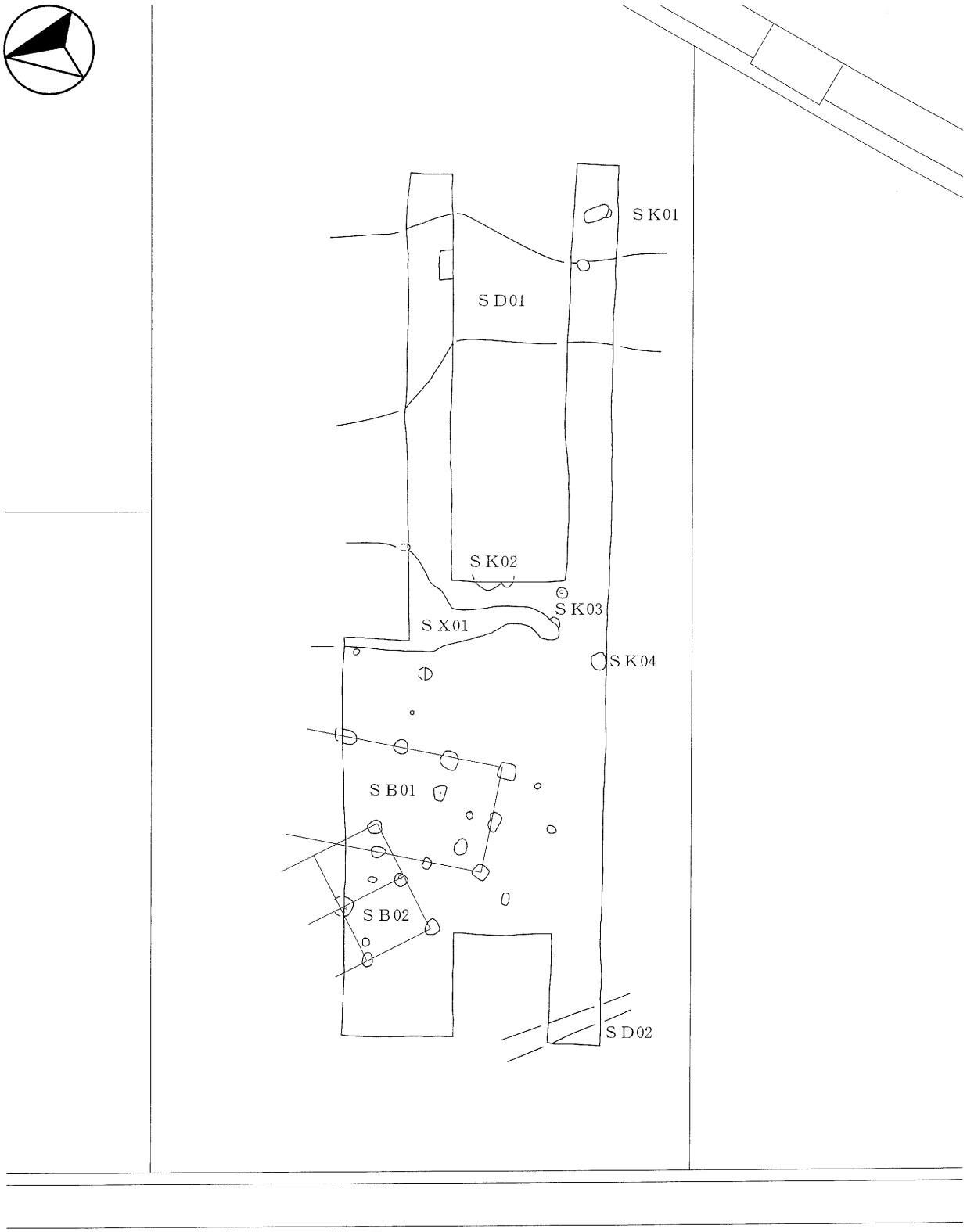
凹地１箇所（ＳＸ01）

この他に、ピットを多数検出している。

出土遺物

出土遺物は次の通りである。

土器・陶磁器類：土師器、須恵器



第25図　出来田南遺跡ミタホーム地区遺構図（1／200）

0　5　10m

Ⅱ　検出遺構

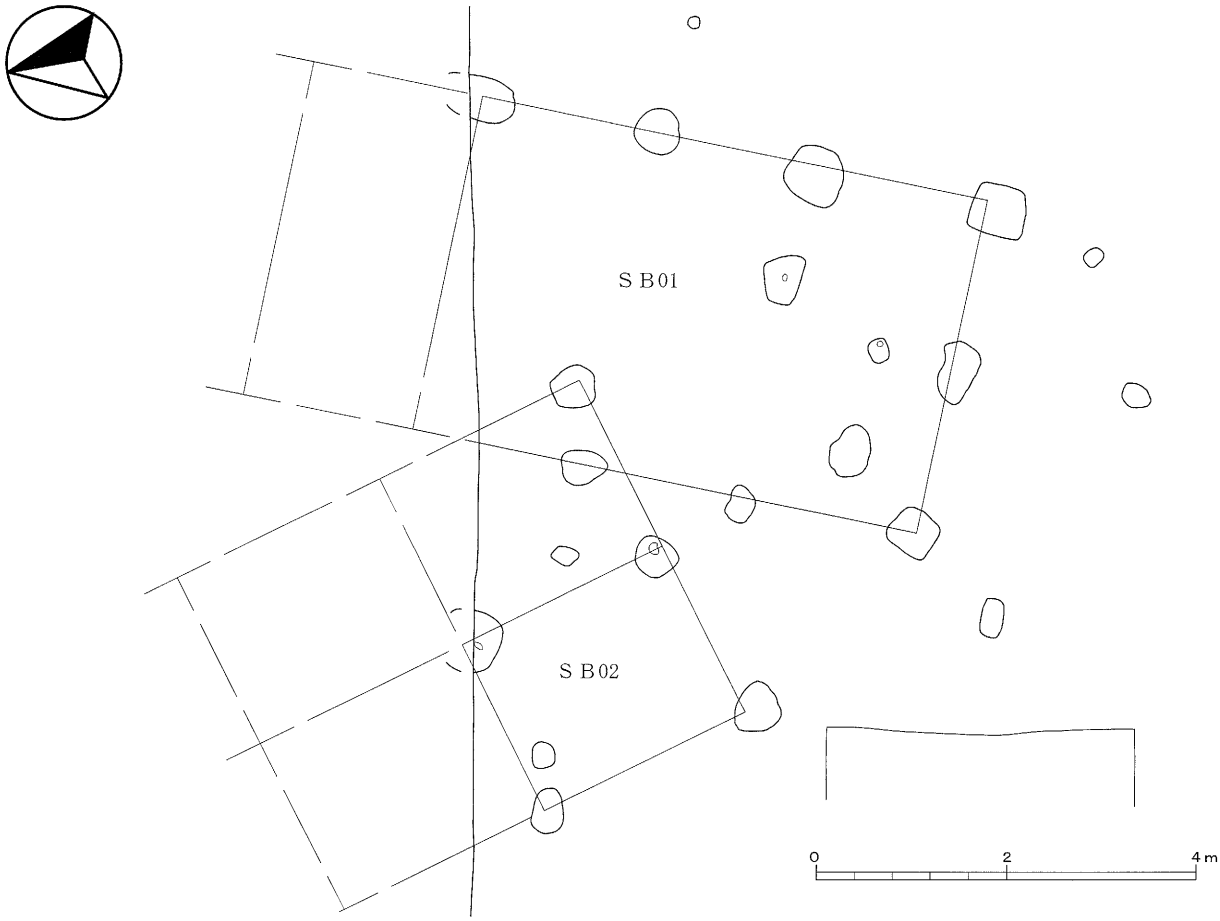
１．掘立柱建物址

掘立柱建物址ＳＢ01

調査地区北西部の第１・２トレンチの拡張区で検出された側柱の掘立柱建物址である。規模は南北３間（3.6m）以上×東西２間（4.8m）である。柱間寸法は1.8mの等間隔を計る。方位は磁北に対し東に23.5度偏っている。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は一辺が0.4～0.6mを計る。北側は第２トレンチ外へ延びる可能性がある。西側はＳＢ02と重複するが、切合い関係は不明である。周囲に同様の覆土を持つ土坑を複数検出したが、断割り調査は行っておらず、掘り方が不揃いのため不確実である。

掘立柱建物址ＳＢ02

調査地区北西部の第２トレンチの拡張区で検出された総柱の掘立柱建物址である。規模は南北２間（4.0m）以上、東西２間（4.0m）である。柱間寸法は2.0mの等間隔を計る。方位は磁北に対し西に17度偏っている。掘り方の平面形は楕円形を呈し、規模は一辺が0.4～0.6mを計る。北側は第２トレンチ外へ延び、２間×２間乃至２間×３間となると思われる。南東側はＳＢ01と重複し、切合い関係は不明である。周囲に同様の覆土を持つ土坑を複数検出したが、断割り調査は行っておらず、掘り方が不揃いのため不確実である。



第26図　出来田南遺跡ミタホーム地区掘立柱建物址ＳＢ01・02遺構図（１／80）

2．土坑

土坑ＳＫ01

調査地区南東部、第１トレンチの東端部で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.9m、短軸0.5mを計る。掘立柱建物址の掘り方の可能性もあるが、今回は単独の土坑とした。

土坑ＳＫ02

調査地区中央部、第１トレンチの東端部で検出された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.3m、短軸0.3mを計る。東側はトレンチ外へ拡がり、二つの土坑となる可能性がある。掘立柱建物址の掘り方と思われるが、今回は単独の土坑とした。

土坑ＳＫ03

調査地区中央部、第１トレンチの中央部で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.4m、短軸0.3mを計る。柱痕を確認しており、掘立柱建物址の掘り方と思われるが、今回は単独の土坑とした。

土坑ＳＫ04

調査地区中央部、第１トレンチの中央部で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.6m、短軸0.5mを計る。掘立柱建物址の掘り方の可能性もあるが、今回は単独の土坑とした。

3．溝状遺構

溝ＳＤ01

調査地区東部、第１・２トレンチの東部で検出された。直線的に北北西～南方向に走る。検出状態と規模から１本の溝と判断した。規模は幅2.6～６m、長さ7.0m以上を計る。北側、南側で調査地区外へ延びる。

溝ＳＤ02

調査地区南西部、第１トレンチの西端部で検出された。北北西から南南東方向に走る。規模は幅0.6～0.8m、長さ2.0m以上を計る。北側・南側で調査地区外へ延びる。

4．凹地

凹地ＳＸ01

調査地区第１・２トレンチ中央部で検出された。北側は調査地区外へ延び、南側は第１トレンチで途切れる。北側で幅が広くなることから落ち込みと考え、今回は凹地とした。

Ⅲ　出土遺物

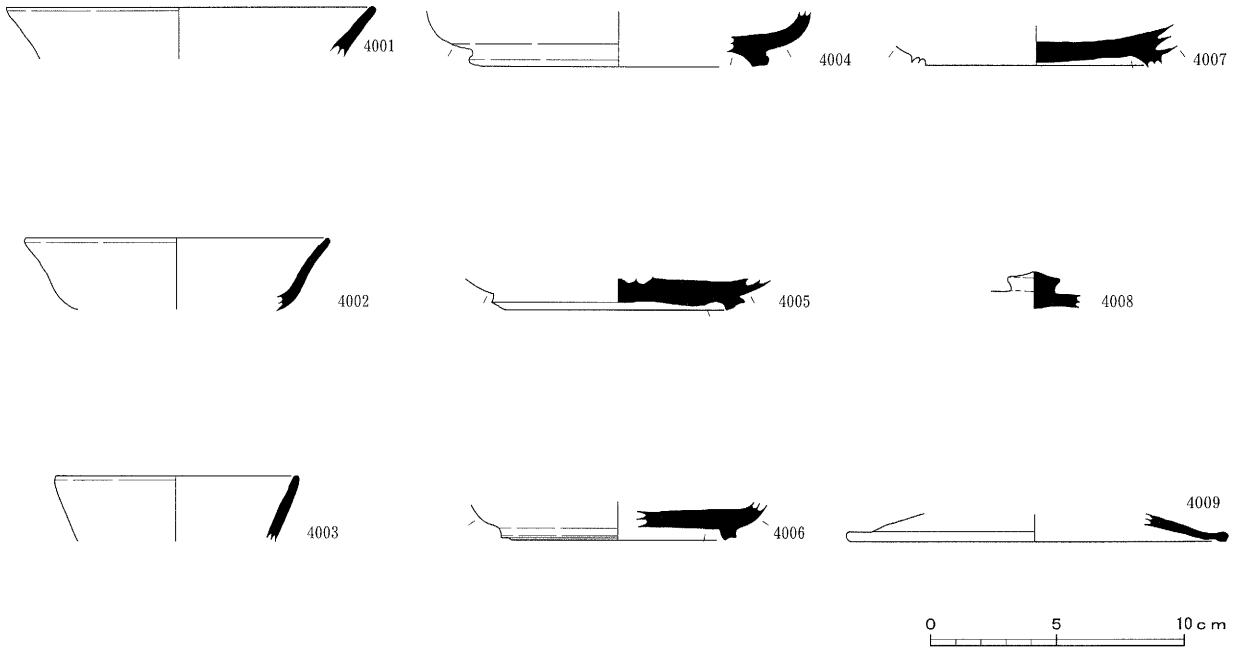
1．土器類

須恵器

杯　第27図－4001～4003。杯の口縁部である。

杯B　第27図－4004～4007。高台の付く杯の底部である。

杯蓋　第27図－4008・4009。4008はつまみ部である。4009は口縁部である。



第27図　出来田南遺跡ミタホーム地区遺物実測図（1／3）

Ⅳ　結　語

出来田南遺跡では、平成11年度に遺跡中央部東側で実施した試掘調査をはじめ、数々の調査により、奈良平安時代を主体とした遺跡であることが確認されている。遺跡南半部一帯を中心に遺跡内容の把握が進展しつつある。今回の調査では、奈良平安時代の遺構、遺物を確認し、遺跡の主要となる年代と集落遺跡としての内容の一端が把握できた。

検出された遺構の大半は奈良平安時代に属すると思われる。掘立柱建物址を少なくとも２棟確認した。棟筋については、磁北から約20度西側へふる振るものと、東側へ約17度振るものがあり異なっている。遺構の一部が相互に重複しており、少なくとも１回の建替えが行なわれている。掘り方の切合い関係がないため新旧関係は明確でない。

また、平成11年度調査地区で検出した掘立柱建物址は、ほぼ南北方向をとっている。平成12年度の調査地区の掘立柱建物址では東側へ約18度振る。これらの検出状態から、古代において集落の様相を変えながら継続して営まれていたと思われる。

遺構の中には、柱痕を残すものがあり、新たな掘立柱建物址が調査地区外に存在すると思われる。

今回の調査地区である、出来田南遺跡の南西部、微高地縁辺部周辺にもこの時期の遺構・遺物が分布していることが確認された。出土遺物は奈良時代から平安時代前期頃のものが大半を占めている。古墳時代や中世の遺物は確認できなかった。

５．その他の調査地区

No.	遺跡名	地区名	所在地	対象面積	調査面積	開発種別	検出遺構	出土遺物	調査期間	調査後の措置
1	東木津遺跡	関口地区	高岡市佐野892-1	906㎡	96.8㎡	個人病院建設	土坑、溝	土師器、須恵器	030414～030415	本調査実施
2	小竹Ｃ遺跡	農道整備事業地区	高岡市中保914他	520㎡	60㎡	農道整備工事	なし	なし	030422	開発許可
3	蔵野町遺跡	農免農道高岡中部地区	高岡市蔵野町268-3他	1,197㎡	69.9㎡	農道改良工事	なし	なし	030423～030425	開発許可
4	下老子笹川遺跡	大納地区	高岡市笹川191番	496㎡	81㎡	資材置場建設	土坑	縄文土器、土師器	030512～030514	開発許可
5	中曽根遺跡	林地区	高岡市中曽根757	1,118.59㎡	11㎡	個人住宅建設	なし	土師器、須恵器	030623	開発許可
6	瑞龍寺遺跡	能登地区	高岡市上関町503-3他	300㎡	40㎡	個人住宅建設	土坑、溝	珠洲、燻瓦等	030624～030627	開発許可
7	柴野遺跡	石堤保育園地区	高岡市柴野麻畑1272-1他	599㎡	19㎡	保育園増築	土坑、溝	土師器、須恵器	030630～030703	本調査実施
8	波岡南遺跡	加藤地区	高岡市波岡106番2	343㎡	53㎡	個人住宅建設	土坑、溝	須恵器	030630～030701	開発許可
9	山園町遺跡	加須栄地区	高岡市二上字院内578-13	296㎡	13㎡	駐車場建設	土坑、溝	土師器、珠洲	030714～030715	開発許可
10	城光寺古墳群	砂防改良工事地区	高岡市二上字院内地内	50㎡	50㎡	砂防改良工事	なし	なし	030731	開発許可
11	江尻Ａ遺跡	スーパー銭湯地区	高岡市江尻字村前400番2他	6,713.37㎡	200㎡	浴場建設	土坑、溝	須恵器	030801～030807	開発許可
12	石堤長光寺遺跡	織田地区	高岡市石堤3661	5,735㎡	120㎡	寺院庫裏建設	土坑、溝	土師器、珠洲	030821～030825	開発許可
13	越中国府関連遺跡	湊地区	高岡市伏木東一宮757	318.65㎡	18㎡	個人住宅建設	土坑、溝	土師器、須恵器	030924	開発許可
14	越中国府関連遺跡	滝内・だるま堂地区	高岡市伏木一丁目618-2	922.81㎡	65㎡	個人住宅建設	なし	なし	031014～031017	開発許可
15	越中国府関連遺跡	勝興寺地区	高岡市伏木古府716他	3,226㎡	55.5㎡	寺院庫裏建設	なし	なし	031024	開発許可
16	戸出４丁目遺跡	土地区画整備事業地区	高岡市戸出３丁目26番他	8,161㎡	42㎡	区画整理事業	なし	なし	031027	開発許可
17	上二上遺跡	竹田地区	高岡市二上町737番2	271㎡	60㎡	個人住宅建設	溝	土師器、須恵器	031029～031104	開発許可
18	越中国府関連遺跡	矢田新町急傾斜地地区	高岡市矢田新町地区	100㎡	27㎡	急傾斜地崩壊対策事業	なし	なし	031205～031211	開発許可
19	下石瀬遺跡	炭谷地区	高岡市石瀬597-1	918.39㎡	137㎡	共同住宅建設	土坑、溝	土師器、須恵器	040308～040309	開発許可
20	柴野内島地内	（仮称）西部地区 老人福祉センター地区	高岡市柴野内島２番１他	3,073㎡	405㎡	老人福祉センター建設	溝	なし	040315～040322	開発許可

※．20については、包蔵地指定はないが、大規模開発事業により試掘調査を実施。

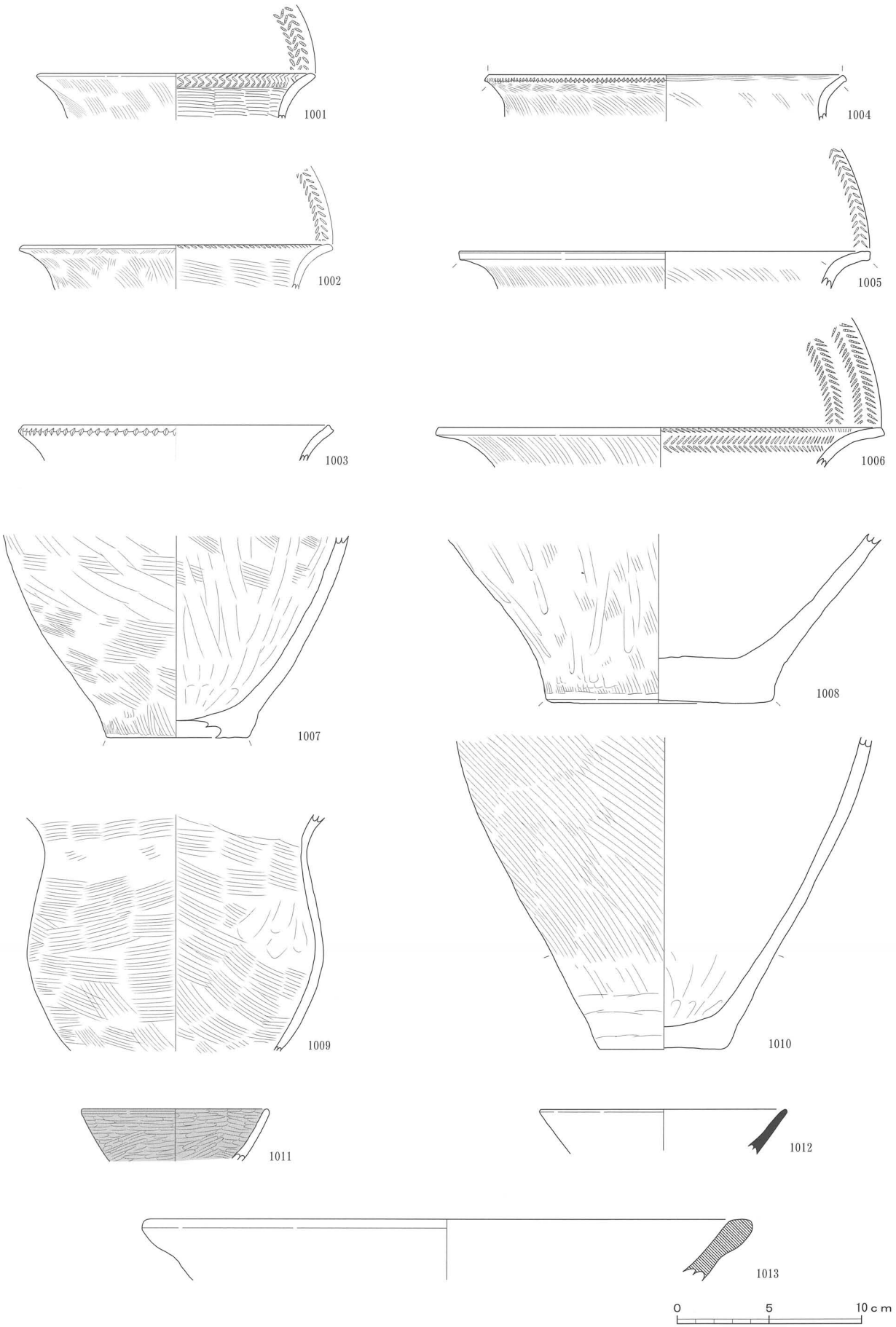
報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさがいほうじゅうよん
書名	市内遺跡調査概報XIV
副書名	平成15年度、石塚遺跡の調査他
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報
シリーズ番号	第56冊
編著者名	荒井隆
編集機関	高岡市教育委員会
所在地	〒933-0057　富山県高岡市広小路７番50号
発行年月日	西暦　2004年３月31日

ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
石塚遺跡 きぼう地区	富山県高岡市 和田	016202	202158	36° 59′ 13″	136° 44′ 43″	030417 ～ 030507	566㎡	介護老人保険施設建設
岩坪岡田島遺跡 三芝硝材地区	富山県高岡市 岩坪	016202	202233	36° 45′ 32″	136° 58′ 42″	031001 ～ 031008	527㎡	簡易駐車場及び資材置場建設
中曽根館遺跡 稲垣地区	富山県高岡市 中曽根	016202	202124	36° 45′ 35″	137° 50′ 05″	030414 ～ 030416	116㎡	住宅建設
出来田南遺跡 ミタホーム地区	富山県高岡市 出来田	016202	202139	36° 43′ 34″	137° 02′ 00″	031020 ～ 031027	181㎡	建売住宅建設
その他の遺跡	富山県高岡市内	016202						住宅建設等

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石塚遺跡 きぼう地区	集落跡	弥生時代 古墳時代 中世	古墳３基 土坑、溝	弥生土器、土師器 須恵器、珠洲	古墳３基検出
岩坪岡田島遺跡 三芝硝材地区	集落跡	古墳時代 奈良平安時代 中世	土坑 溝	土師器、須恵器 珠洲	
中曽根館遺跡 稲垣地区	集落跡	弥生時代 奈良平安時代 中世	土坑 溝	弥生土器、土師器 須恵器、珠洲	
出来田南遺跡 ミタホーム地区	集落跡	奈良平安時代	堀立柱建物址 土坑、溝	土師器、須恵器	
その他の遺跡					調査地区20箇所

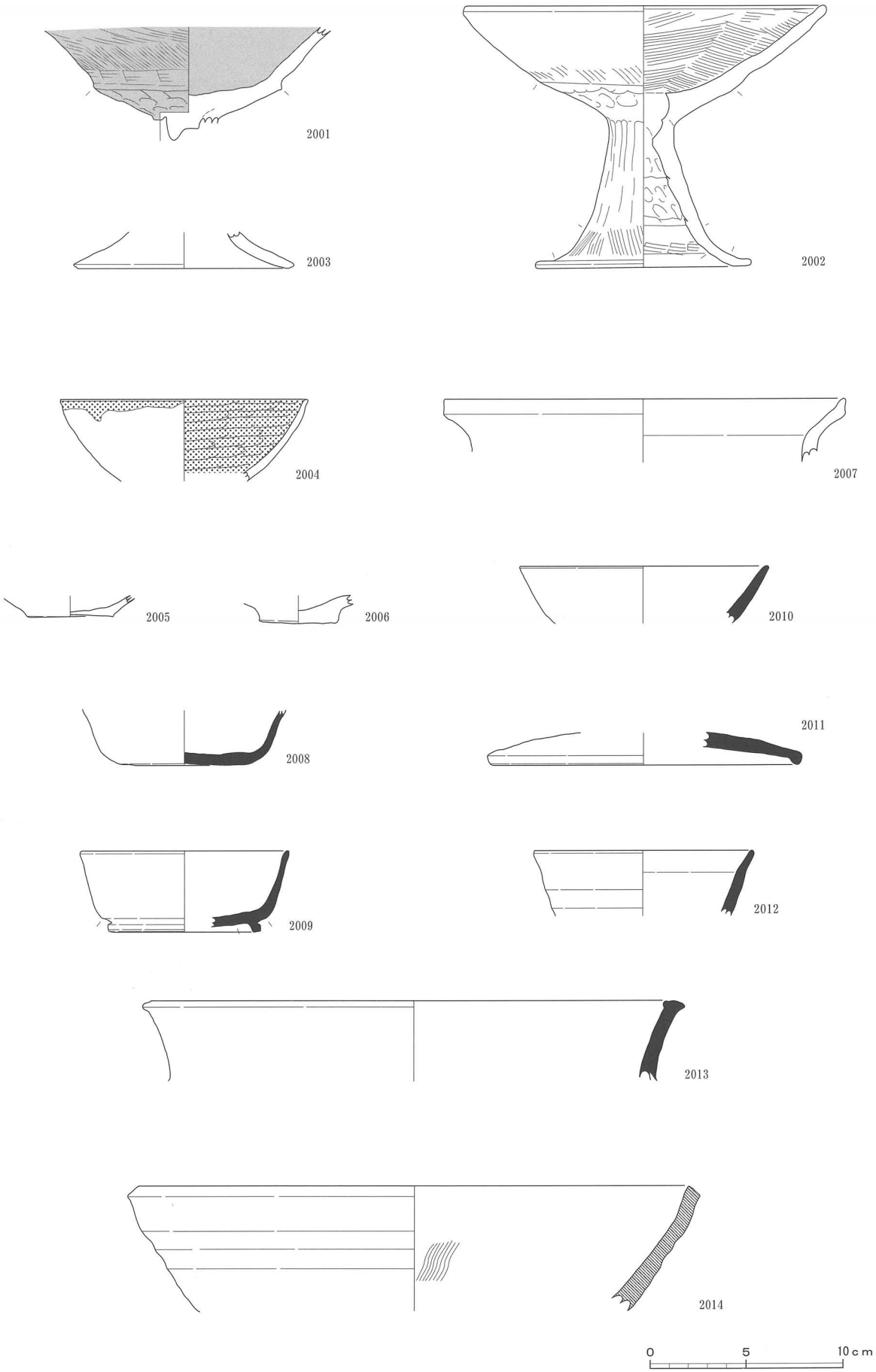
図　面　・　図　版



土器類＝弥生土器；1001～1010、土師器；1011、須恵器；1012、珠洲；1013

縮尺１／３

図面〇二　遺物実測図　岩坪岡田島遺跡



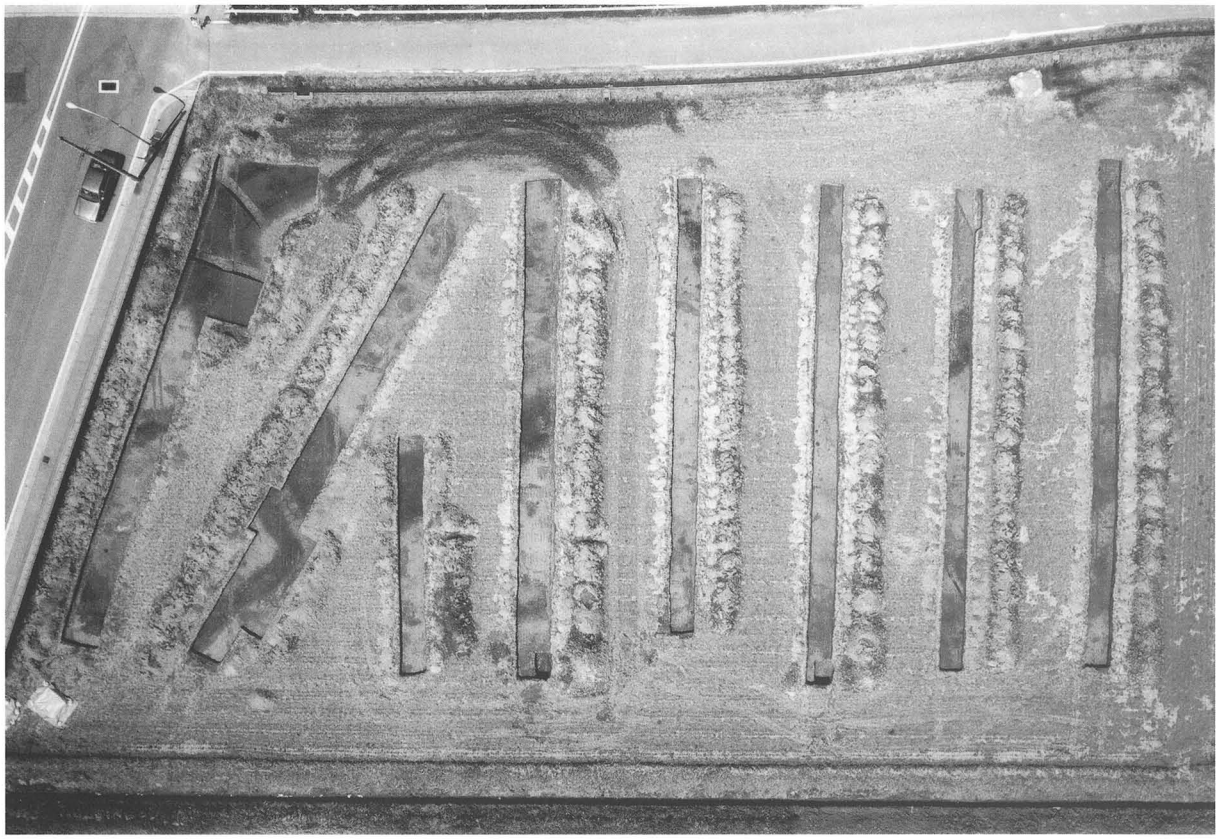
土器類＝土師器；2001～2007、須恵器；2008～2013、珠洲；2014

縮尺１／３

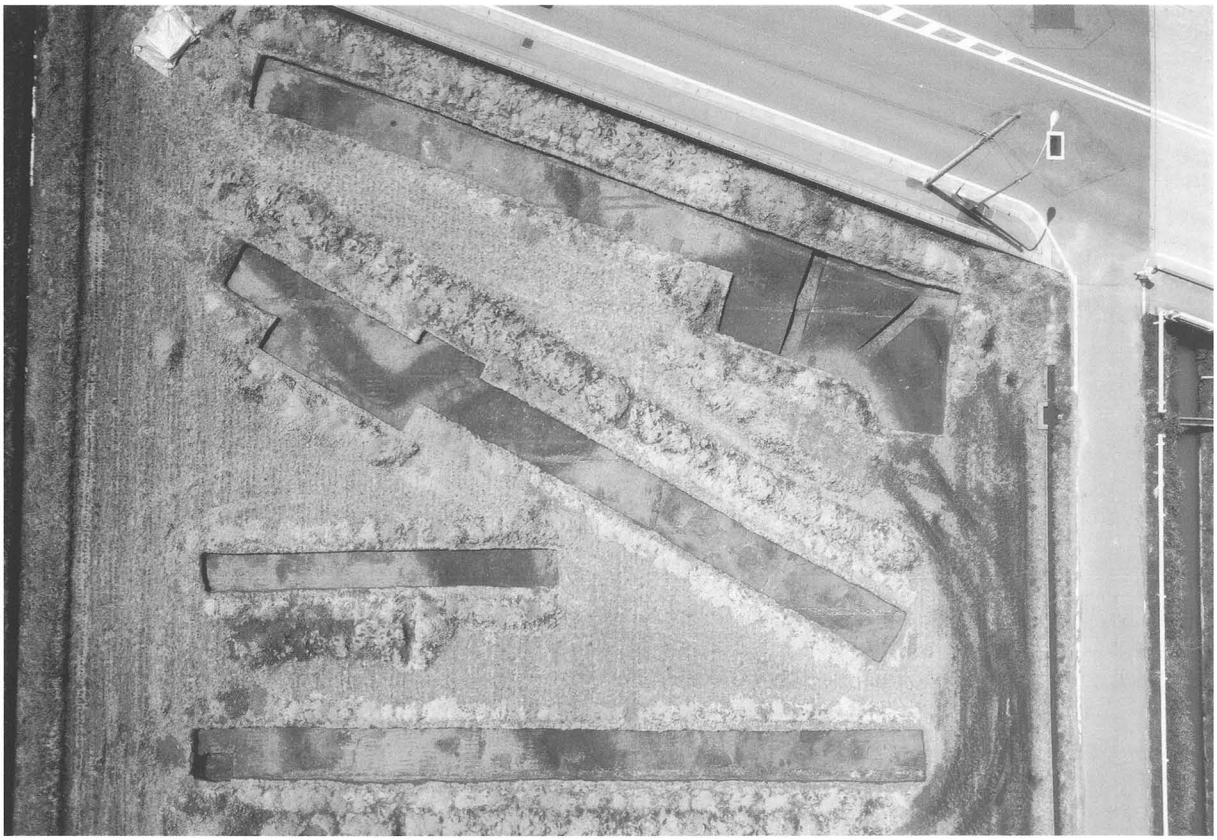
1．調査地区全景（北西）

2．調査地区全景（西）

図版〇二　遺構写真　石塚遺跡



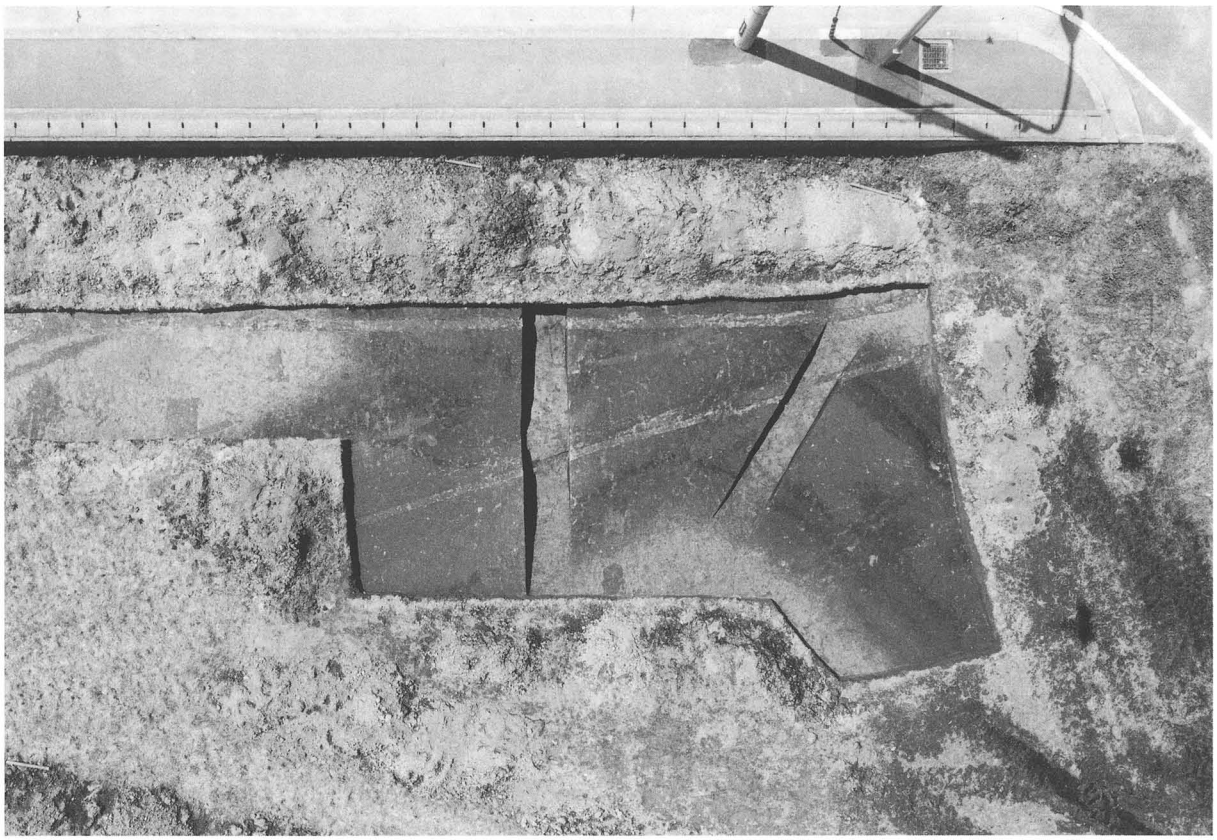
1．調査地区全景（上方）



2．調査地区南半部全景（上方）

1．古墳ＳＺ01・03号墳近景（東南東）

2．古墳ＳＺ01・03号墳近景（北）



1．古墳ＳＺ01・03号墳近景（上方）

2．古墳ＳＺ01・03号墳土層断面（東南東）

1．古墳ＳＺ02号墳全景（北東）

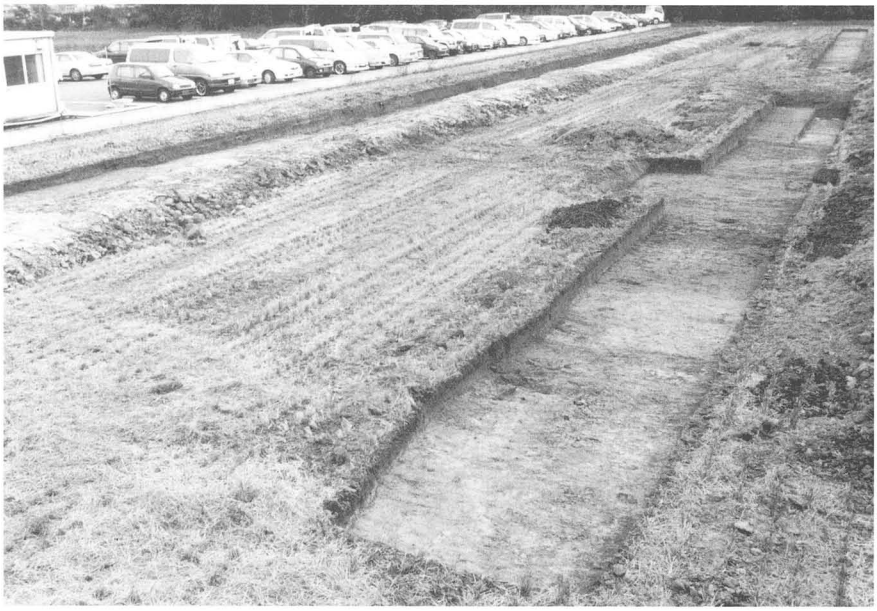
2．古墳ＳＺ02号墳全景（北）

図版〇六　遺構写真　石塚遺跡

1．遺物出土状態
（南）

2．遺物出土状態
（南東）

3．遺物出土状態
（北東）



1．調査地区全景
（東）

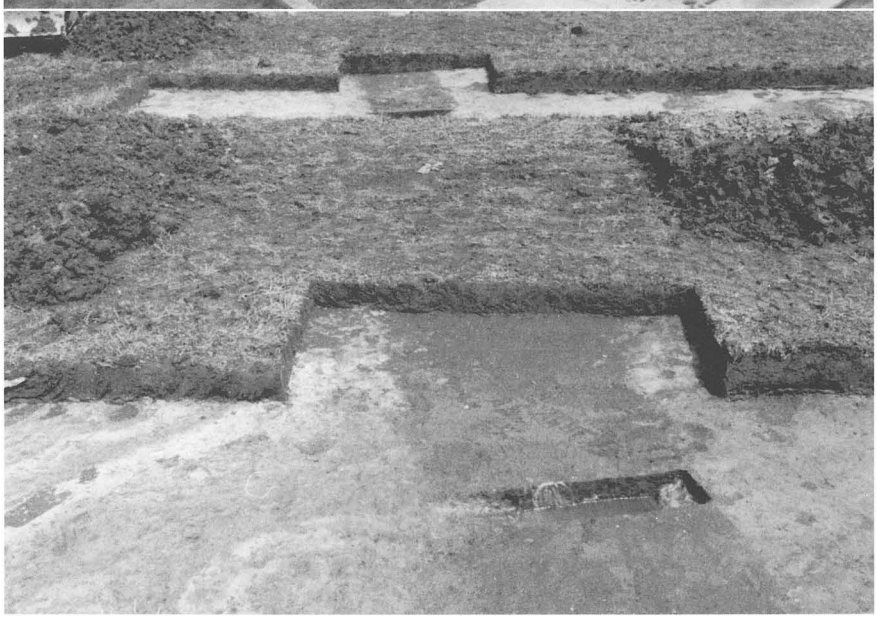
2．調査地区全景
（西）

3．遺物出土状態
（北）

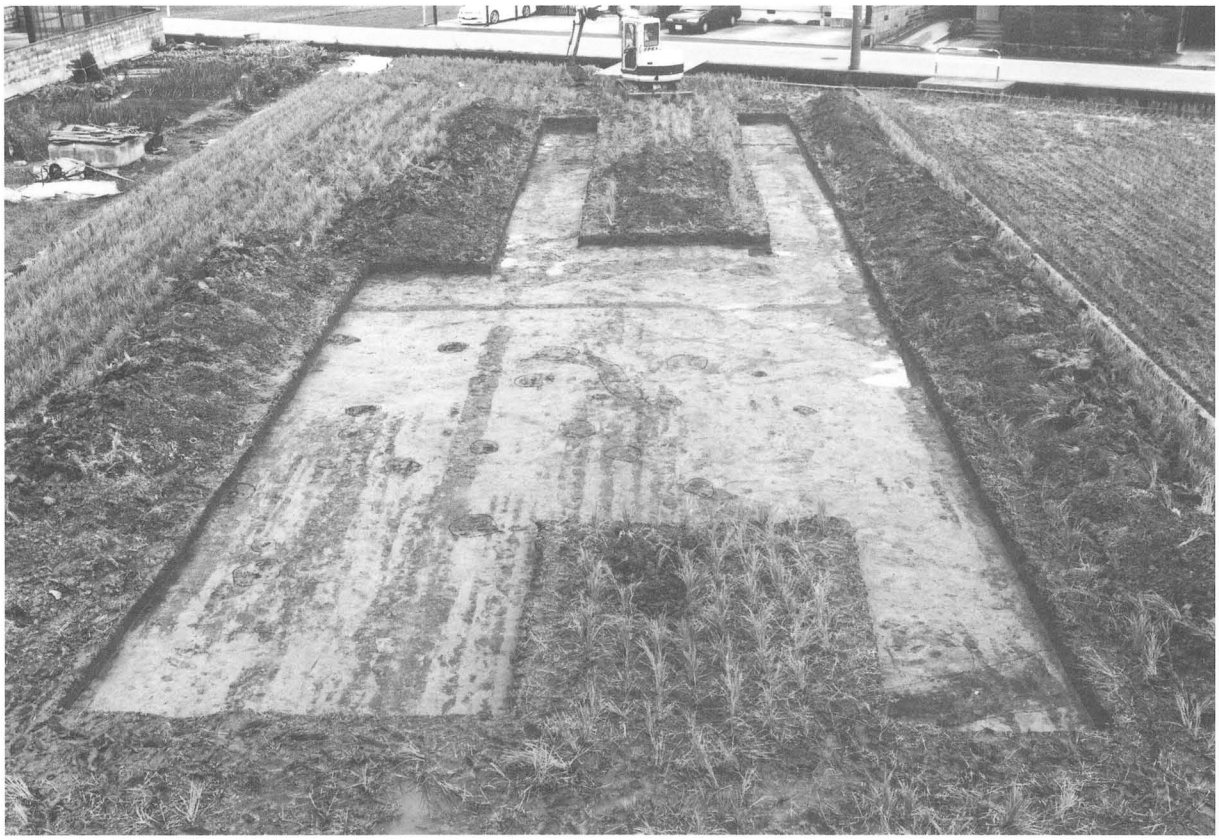
図版〇八　遺構写真　中曽根館遺跡

1．調査地区全景
（北東）

2．調査地区全景
（北西）



3．溝ＳＤ01全景
（南）

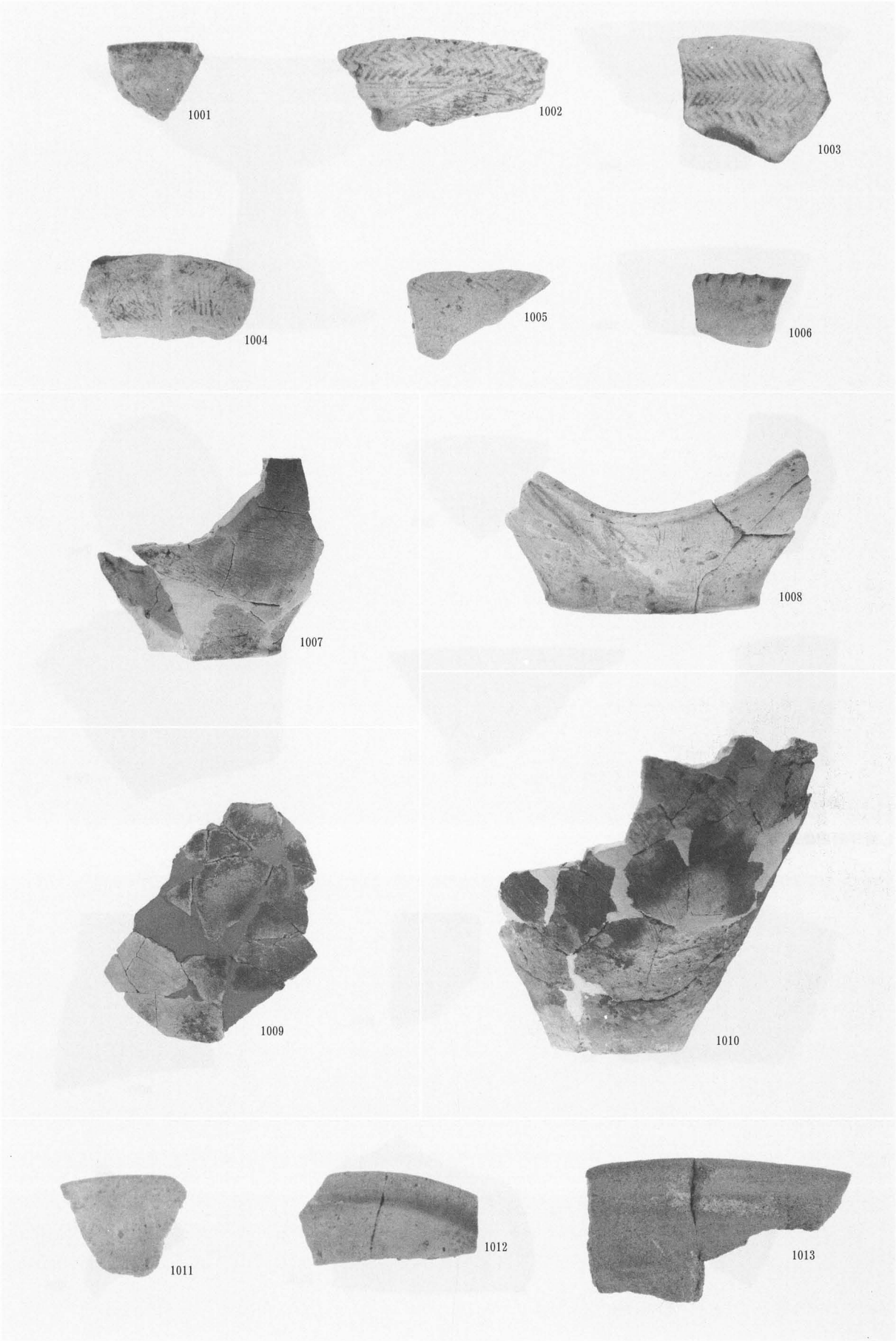


1．調査地区全景（西北西）

2．調査地区全景（北東）

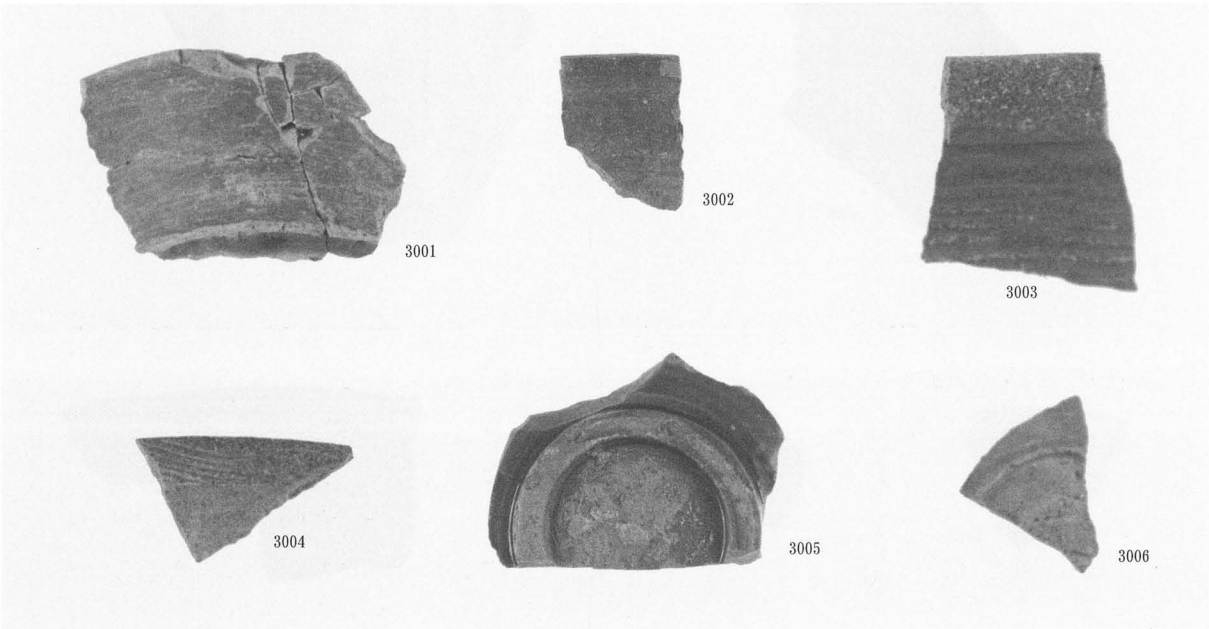
1．掘立柱建物址ＳＢ01全景（東南東）

2．掘立柱建物址ＳＢ02全景（西南西）


1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1009
1010
1011
1012
1013

土器類

1. 岩坪岡田島遺跡、土器類



2. 中曽根館遺跡、土器類

高岡市埋蔵文化財調査概報第56冊

市内遺跡調査概報XIV

発行者　高岡市教育委員会
富山県高岡市広小路７番50号

2004年3月31日

印刷所　株式会社モトヨシ美術印刷
富山県高岡市石瀬本町768